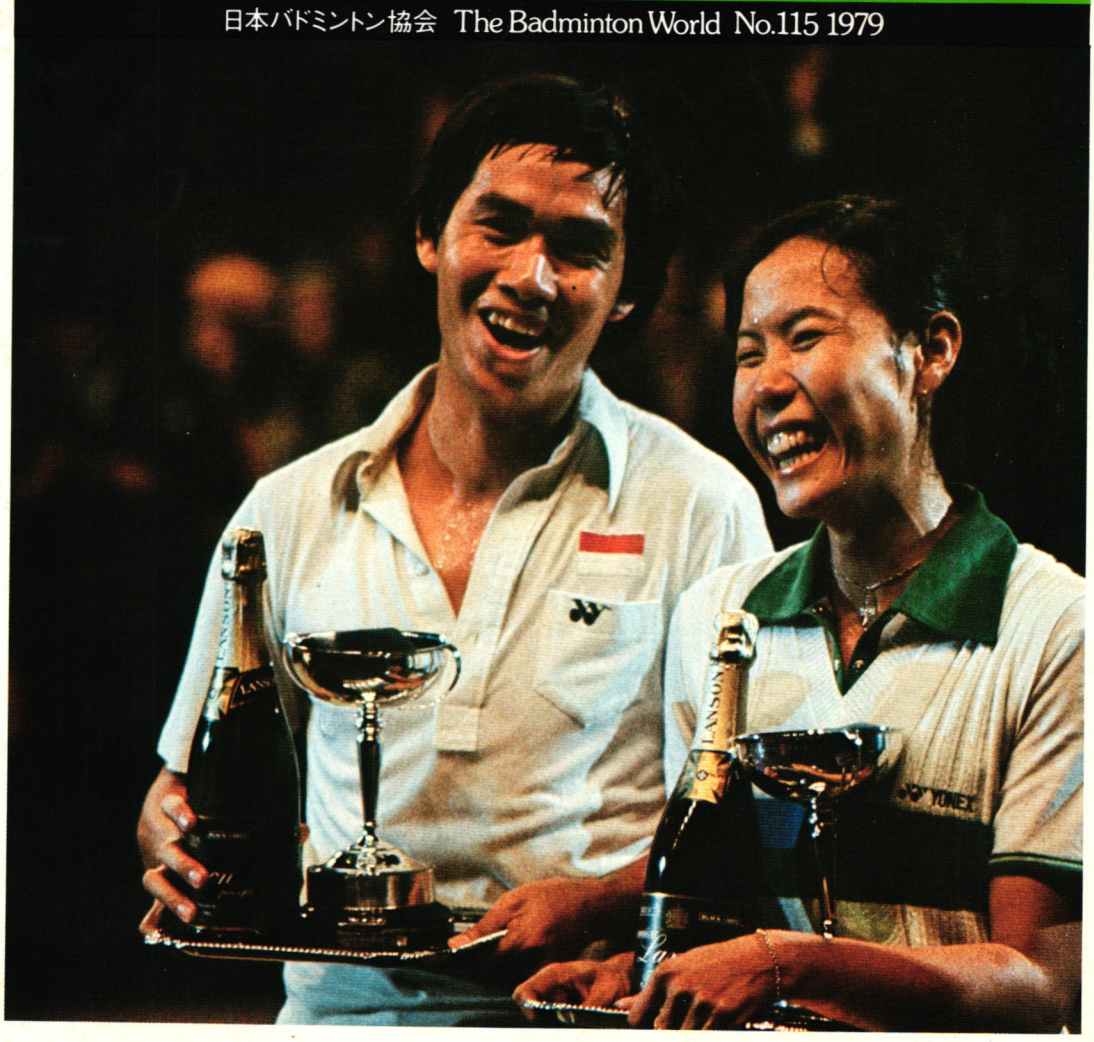
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和54年5月15日発行（毎月1回15日発行通巻第115号）

# バドミントン 5

日本バドミントン協会　The Badminton World　No.115 1979



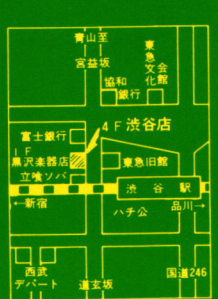
新入生チャンス
フェア

4/14➡5/31

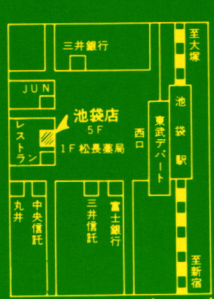


●年中無休
●営業時間
AM 9：00～PM 9：00

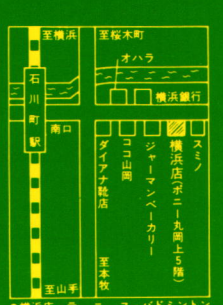
# ラケットショップ元町




●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-400-7390




●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-988-0215




●横浜店 テニス・バドミントン
☎045-651-2020

# バドミントン5


❷
第69回全英バドミントン選手権大会
リム・スイ・キン独壇場の連覇

❹
悲願達成、コーペン初制覇
近藤またしても2位

❻
チュンチュン組3連勝5度目
飯野・土田組高価なベスト4

❽
歓喜、ベラワティ組初優勝
徳田・高田組2連勝ならず

❿
クリスチャン組欧州を一蹴
池田・米倉組日本人初のベスト4

⓬
われらのクラブ・霞ヶ丘クラブ
ヨーロッパ的におおらか

⓭
エツコのバドミントン・ライフ
三連覇できず、新しいダブルスに改造

⓰
全英選手権・エピソード
泣くな!!飯野・土田組

㉜
ガッツ対談「みんなと話そう」
第2のリム・スイ・キンを目指せ

㉝
スターティング・バドミントン〈最終回〉
パターン練習～基本の戦術

㊷
第30回全英ジュニア選手権大会
大雪のワトフォードで息づまる熱戦

㊹
本田弘敏
日本リーグ発足にあたって

㊺
浅岡武日本リーグ運営委員長に聞く
新しい人材の掘り起こしを

㊻
海外トピックス
悪者どころか！ほか

㊽
読者と編集者
編集室から


◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇写真撮影＝赤星三樹（アサヒペンタックスMX、K2　SMC-P-M50／1.4　SMC-P-200／2、300／4）
◇今月の表紙＝みごとなチームワークで全英混合ダブルスチャンピオンになったクリスチャンとイメルダ（インドネシア）

# 第69回全英選手権

## 男子シングルス

# リム・スイ・キン独壇場の連覇

## 日本選手はベスト16止まり

第69回全英バドミントン選手権は、3月31日から24日までの4日間、イギリス・ウェンブレーのスポーツアリーナで行なわれました。

日本からも、板垣隆房監督以下、男子6名、女子6名の選手が参加しましたが、惜しくも優勝することができず、近藤選手が女子シングルスに、徳田・高田選手が女子ダブルスに銀メダルを獲得したにとどまりました。

また、飯野、土田選手が男子ダブルスで、池田、米倉選手が混合ダブルスでベスト4へ進出して注目を集めました。

優勝は、女子シングルスのコーペンを除いては、インドネシアが独占、男子シングルスにリム・スイ・キン、男子ダブルスにチュンチュン・ワジュディ組、女子ダブルスにベラワティ・イメルダ組、混合ダブルスにクリスチャン・イメルダ組がそれぞれ優勝しました。

▽男子シングルス一回戦

長谷川 2 (15—8, 12—15, 15—12) 1 バレン (NZ)

銭谷 2 (17—14, 15—11) 0 ギルラン ド (E)

土田 2 (15—8, 15—4) 0 カンフー (T)

カールソン (S) 2 (15—12, 15—9) 0 栂野尾

飯野 2 (15—5, 15—11) 0 アンダーソン (D)

▽2回戦

ニアガード (D) 2 (18—16, 14—15, 15—8) 1 長谷川

銭谷 2 (15—7, 15—3) 0 ウィルクス (E)

土田 2 (15—8, 15—4) 0 ラーセン (D)

飯野 (キケン) プラカシュ (I)

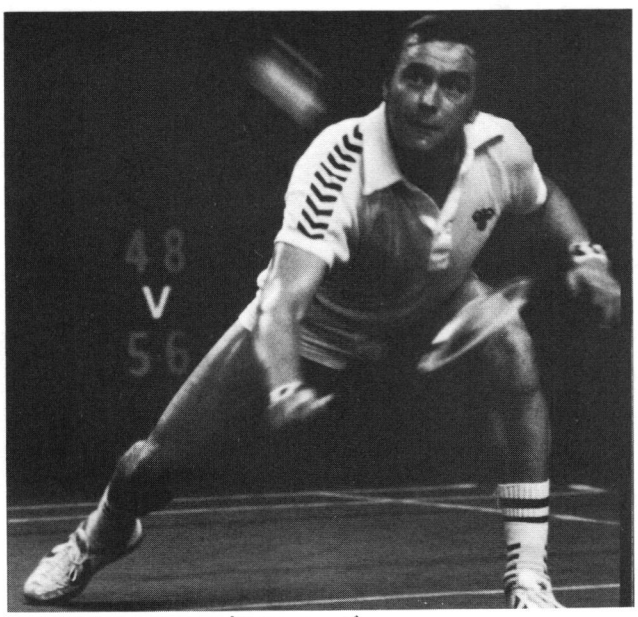
▽3回戦

ダニー (IN) 2 (18—16, 15—11) 0 銭谷

ジョンソン (S) 2 (15—7, 15—7) 0 土田

ルイスポンゴ (IN) 2 (15—9, 15—10) 0 飯野

▽準々決勝



ベスト4にくいこんだプリのレシーブ

リム・スイ・キン 2（15—5 15—8）0 フレッドベリ（D）
M・F・ハンセン 2（15—12 15—9 14—17）1 ダニー（D）
デルフス 2（15—5 12—15 15—8）1 ジョンソン（D）
プリ 2（15—6 15—4）0 ルイス（D）
▽準決勝
リム・スイ・キン 2（18—15 15—4）0 M・F・ハンセン
デルフス 2（17—16 17—14）0 プリ
▽決勝
リム・スイ・キン 2（15—8 15—7）0 デルフス
（リム・スイ・キンは、2連勝2度目）

リム・スイ・キンの独壇場の感があった。

ハルトノも、スミラットも欠場した今大会、ベスト4にはデンマーク勢が3人も顔を出したが、リム・スイ・キンの牙城を崩すことはできなかった。

各国に実力者が多く、一番層の厚い種目といわれながら、今やリム・スイ・キン一人が図抜けた存在になろうとしつつある。

このトーナメントで、リム・スイ・キンが緊張した試合らしい試合をみせたのは、準決勝と決勝の2試合だけ。

それまでの試合は、ウォーミングアップ、肩ならしといった程度の雰囲気しか伝わってこなかった。

わずかに緊張感をみせた、M・フロスト・ハンセン戦では、第2ゲーム、1—10からフォアのクロススマッシュを駆使して追い上げ6—11、8—12とし、13オールのセッティングに持ち込み、集中力の確かさをみせて、見事に逆転に成功してしまった。

決勝のデルフス戦でも、緊迫したのは第1ゲームの中盤まで、8—7からは連続して得点し、早くも大勢を決めた。

第2ゲーム、14—1のマッチポイントから、思い出したようにベストを脱いで観衆を驚かせたあたり余裕しゃくしゃく、デルフスも戦意喪失といった試合ぶりだった。

弱冠21歳のリム・スイ・キンが、ハルトノの持つ7年連続8回の優勝記録を破ることができるか、可能性を秘めた若きヒーローに大いに期待したい。

このリム・スイ・キンとは好対照だったが、老雄プリの活躍も目を見張るものがあった。

1回戦のトレーセン（ノルウェー）、3回戦のジョリー（イギリス）に第1ゲームを奪われたものの、第2ゲーム以降はガラリと戦法を変えた老かいな試合運びで逆転。

数こそ少ないが、あの「カーン」という金属音のスマッシュは、決定率ナンバー1か。

準決勝のデルフス戦では、チャンス以外は高いクリアーを使って時間をかせぐ独特のプレー、第1ゲームは12—14、第2ゲームは10—14からセッティングに持ち込み、大接戦を演じた。

同じくベテランの味を発揮したのがジョンソン。

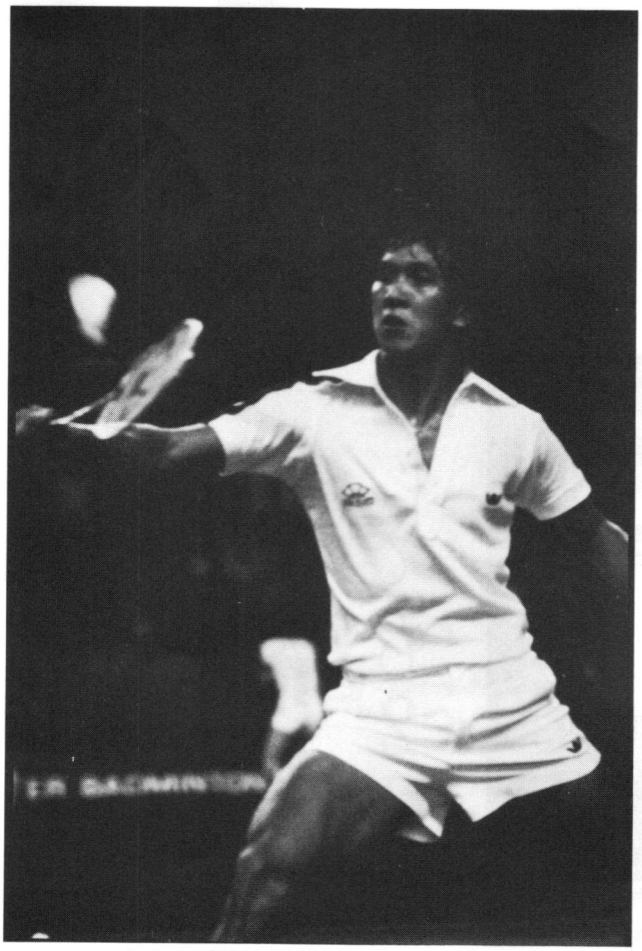
3回戦で土田を降し、準々決勝ではデルフスから1ゲームを奪って健闘した。

キールストロム（スウェーデン）が病み上がり、プラカシュ（インド）が足を痛めて棄権、ハルトノ、スミラットが欠場の中にあって、プリ、ジョンソン両古豪の奮戦が印象的だった。

日本選手は、ベスト16へ進出した銭谷、土田、飯野が揃って3回戦で討死、日本のエース銭谷も、インドネシアの新鋭ダニーに競り負けて、世界の壁の厚さを改めて見せつけられた。

初出場の長谷川は、長身左腕のテクニシャン、ニアガードと技比べを演じたが惜敗。

これで、ベスト4へ進出できなかったのはこの男子シングルスだけ、日本にとって最も不得手の種目になってしまったようだ。



ハルトノの記録も夢ではないリム・スイ・キン

第69回全英選手権

女子シングルス

# 悲願達成、コーペン初制覇

## 近藤、またしても2位

▽女子シングルス一回戦

| | | | |
|---|---|---|---|
| 米倉2 | 11-2 12-10 | 0 | ボイヤー(D) |
| 石田2 | 11-5 11-8 | 0 | シンプソン(E) |
| 高田2 | 11-1 11-8 | 0 | ウィクソン(E) |
| 近藤2 | 11-6 11-4 | 0 | ベケット(E) |

▽2回戦

| | | | |
|---|---|---|---|
| 徳田2 | 11-8 11-5 | 0 | バーグ(D) |
| 米倉2 | 11-6 11-8 | 0 | ビューセコム(H) |
| 石田2 | 11-8 11-2 | 0 | ブルマー(SW) |
| 高田2 | 11-8 12-10 | 0 | ファラデー(C) |

▽3回戦

| | | | |
|---|---|---|---|
| 近藤2 | 11-6 11-4 | 0 | スチュアート(S) |
| 湯木2 | 11-2 11-3 | 0 | クリステンセン(D) |
| 徳田2 | 11-6 11-3 | 0 | ズィブラー(G) |
| ギルクス(E)2 | 11-1 11-0 | 0 | 米倉 |
| カータ(C)2 | 11-6 12-10 | 0 | 石田 |
| 高田（キケン） | ニールセン(D) | | |
| 近藤2 | 11-3 11-6 | 0 | ベラワテ(IN) |
| 湯木2 | 11-7 11-0 | 0 | リダー(H) |

▽準々決勝

| | | | |
|---|---|---|---|
| コーペン(D)2 | 11-4 11-2 | 0 | 徳田 |
| ギルクス2 | 11-8 12-11 | 0 | カータ |
| 近藤2 | 11-6 11-3 | 0 | 高田 |
| ウェブスター(E)2 | 11-2 12-9 8-11 | 1 | 湯木 |

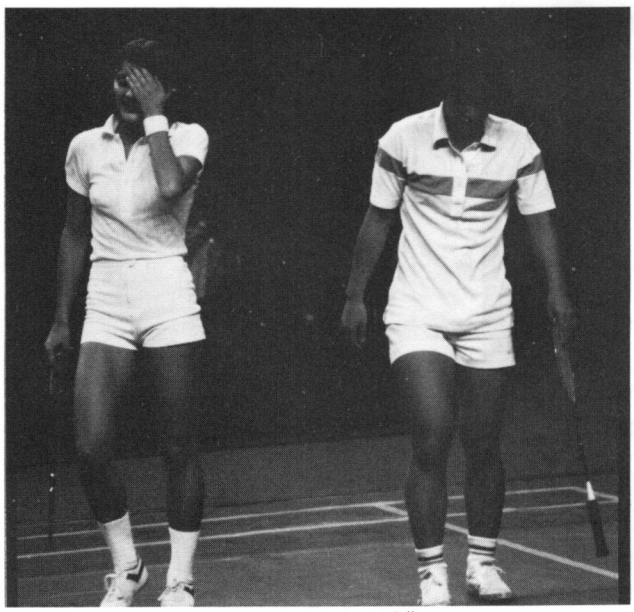
▽準決勝

| | | | |
|---|---|---|---|
| コーペン2 | 11-6 11-8 | 0 | ギルクス |
| 近藤2 | 11-8 11-8 | 0 | ウェブスター |

▽決勝

| | | | |
|---|---|---|---|
| コーペン2 | 11-8 1-11 12-9 | 1 | 近藤 |

（コーペンは初優勝）



思わず嬉し泣きのコーペンとうなだれる近藤

戦前から、優勝争いはコーペン、ギルクス、ベラワティ、それに日本選手の間で行なわれると見られていた。

その優勝候補の一角、ベラワティを破ったのが近藤。

近藤は、第1ゲーム、ベラワティのスロースターぶりにつけ入り、9—3とリード、後半のベラワティのくい下がりも9—6でストップ、いつにない慎重なスタートを切った。

第2ゲームになっても、序盤戦の互いの決め手を使った攻防を、近藤はジックリ我慢。

ベラワティのカットミス、サイドアウトを待って第一関門を突破した。

し烈になったのは準々決勝。

日本は、ベスト8に徳田、近藤、高田、湯木の4人が進出して層の厚さをみせた。

しかし、まず徳田が、デンマーク・オープンを制し、初の全英制覇を目指すコーペンに、手も足も出ず完敗。

徳田は、コーペンの速いクリアーにかく乱され、先手を取ろうと焦るショットにミスが重なり、持ち味の粘りを発揮できず、またしてもコーペンの壁を破ることができなかった。

高田が、僚友近藤に敗れたあと、過去3回優勝の実績を持つ湯木が登場。

湯木は、地元の声援を背に健闘するウェブスターに、要所要所を押さえた巧みな試合運びをみせて、第1ゲームを先取、順調に準決勝進出かと思われた。

しかし、第2ゲーム中盤から攻撃にリズムの出てきたウェブスターは、サウスポー独特の切れ味鋭いスマッシュ、カットを駆使して、試合はにわかに白熱。

7—9の劣勢から、なんとかセッティングに追いついたものの、湯木には肝心の決め手が不足、波に乗ったウェブスターは絶妙のネットを繰り出してファイナル・ゲームへ持ち込んだ。

第3ゲームへ入ると、湯木のホームポジションへの戻りが目に見えて遅くなり、そこへ逆をつくようにウェブスターのスマッシュが叩き込まれる。

本来なら自滅するはずのウェブスターが、この試合に限って満点のプレー、ネット、クロスカットをコーナーギリギリに決めて〝打倒湯木〟を果たした。

試合後のウェブスターは、記者、カメラマンに囲まれて、まるで優勝者なみの扱い、女子には珍らしい攻撃型プレーヤーとして異彩を放っていた。

ウェブスターは、翌日の準決勝でも持ち味を発揮、切れのよいショットで大いに近藤を苦しめた。

が、近藤も今大会は〝我慢の子〟、2—4、4—8とリードされながらも慎重な配球、ウェブスターにカットミスが重ったところをとらえて9—8と逆転に成功、うまい試合運びをみせて第1ゲームを先取。

第2ゲームも、いったんは4—6とリードを許したが、ミスを待つ作戦が功を奏して、昨年に続き、決勝進出を果たした。

一方、コーペン対ギルクスの準決勝は、昨年の覇者ギルクスに得意の逆クロスカットが決まらず苦しい展開。

第1ゲームの4オール、第2ゲームの5オールまで互角の試合内容を示したが、コーペンの勢いのある速いクリアーに押され気味のギルクスは、後半カットを狙いすぎてミスを重ね、2連勝3度目の優勝を諦めなければならなかった。

ともに初優勝を賭けたコーペン対近藤は、決勝戦にふさわしいシーソーゲームを繰り広げ、赤い気炎いっぱいの素晴らしい好ゲームとなった。

第1ゲームを、コーペンに粘り負けた近藤は、第2ゲーム丁寧なラケットさばきでタイに持ち込み、ファイナルゲームへ。

第2ゲームから、凡ミスの目立つコーペンは、ファイナルに入っても苦しい戦い。

近藤は、この時とばかりに5—0、7—2と大きくリード、初優勝へ一歩前進の感があった。

しかし、コーペンもこのまま引き退がるはずがない。

サービス・オーバーを繰り返すうちに次第に調子を取り戻し、4—7、6—7、近藤のネットミスで7—7と追いついてしまった。

近藤は、目の前の初優勝がかえって重荷になったのか、積極さを失って、後半はお株を奪われたようにコーペンのスマッシュを浴び、最後はフォアサイドへのスマッシュに転倒して飛びついたが、レシーブし切れずゲームセット。

倒れた近藤に、コーペンが駆け寄って握手する姿がいかにも明暗を象徴する勝者と敗者の姿だった。



夢にまで見た栄冠をついに手にするコーペン

# チュンチュン組3連勝5度目

## 飯野・土田組高価なベスト4

▽男子ダブルス2回戦

バレン・ウィルソン（NZ）　2（15―8　15―13）0　池田・栂野尾

飯野・土田　2（15―4　15―7）0　アームストロング・デュー（E）

デルフス・キールストロム　2（15―12　15―4）0　銭谷・長谷川（D・S）

▽3回戦

飯野・土田　2（15―13　17―16）0　フローマン・ランドベリ（S）

▽準々決勝

チュンチュン・ワジュディ　2（15―7　15―7）0　タルボット・スチュアート（F）

飯野・土田　2（15―10　16―17　15―10）0　ハリヤント・カルハリヤント（IN）

カールソン・ノルディン　2（15―10　15―9）0　トゥイルクス・ブリバンティ（S）

チャンド・クリスチャン　2（15―10　15―11　7―15）1　ステイブンス・トレジェット（E）

チュンチュン・ワジュディ　2（18―17　14―17　15―6）1　飯野・土田

▽準決勝

チュンチュン・ワジュディ　2（15―6　15―9）0　チャンド・クリスチャン

カールソン・ノルディン　2（15―3　17―16）0　チュンチュン・ワジュディ

（チュンチュン、ワジュディ組は、3連勝5度目）

チュンチュン・ワジュディ組が、辛くも面目を保って優勝したものの、ここ数年続いていた磐石のインドネシアの2大コンビにも、ようやくスキがみえ始めた感を抱かせた。

過去の、あの人間業とは思えない肉体的技術的な強さはもちろん、ピンチにも動じなかった



5度目の優勝、チュンチュン・ワジュディ

冷静沈着な試合態度に、わずかながら風化作用が見られてきた。

毎年、チュンチュン組の援護射撃をする格好で2位の座を獲保し、自らも2度の優勝経験を持つクリスチャン・チャンドラ組は、準々決勝のスティブンス・トレジェット組との試合から最悪の状態。

チャンドラのスマッシュは甘く、サービスのコントロールに苦しみ、スマッシュ・レシーブも浅い返球が続いた。

このため、クリスチャンがオールコート・カバーに走り危機を脱したが、準決勝でカールソン・ノルディン組につかまってしまった。

スウェーデンのこの若手ペアは、ともに重いクロススマッシュを持ち、前衛での捨て身の勘が手をつけられないほど的中、クリスチャン組は接戦に持ち込むこともできなかった。

デンマーク・オープンを制し意気上がる日本の雄、飯野・土田組も、絶好調を維持して強敵を打ち砕いて勝ち進んだ。

まず、スウェーデンのダブルス巧者フローマンが新鋭ランドベリとコンビを組んで飯野組と対戦したが、飯野組は後半に強く、1・2ゲームとも逆転勝ちを収めてベスト8。

準々決勝では、インドネシアから初参加したカルトノ・ハリヤント組と壮絶な死闘を繰り広げた。

カルトノ組は、チュンチュン組を小型にしたようなタイプ、速射砲のような攻撃と、キビキビした動き、ともにフェイントの利いたバックハンド・サービスを得意とするところなど、とても初出場とは思われない。

このバックハンド・サービスがなかなかの癖者、手首だけでハネ上げるため予見することができず、ショートサービスをアンダーハンドで返球することもしばしば。

1ゲーム飯野組が先取したものの、第2ゲーム中盤から、スマッシュをよく拾われて苦戦、10—14からセッティングに持ち込み、逆にマッチポイントを握ったが、カルトノのサービスに振り回された格好でファイナル・ゲームへ持ち込まれた。

第3ゲームも、追いつ追われつの大接戦、10オールまで予断を許さない緊迫した状態が続いたが、大事な場面でカルトノ組にサービスミスが出始め、飯野組は完璧なレシーブをみせて、'74の池田・栂野尾組以来、久々のベスト4入りを果たした。

そして飯野・土田組は、チュンチュン・ワジュディ組を相手に、決勝進出へあと1本という、今大会屈指の試合を展開した。

第1ゲームは、チュンチュン組の一方的な試合に終ったが、第2ゲームから当たりの出たスマッシュ、レシーブは圧巻。

6—2、8—2、10—2と大差を広げ、ゲームポイントを握ったときのチュンチュン組の得点は7点の速攻ぶりだった。

しかし、さすがはチュンチュン、ワジュディ、ここからのサービス・レシーブには迫力があった。

まるで獲物を狙うヒョウのような敏捷さでプッシュを決め、簡単にゲームを落そうとはしない。

必死の形相でセッティングに持ち込んだチュンチュン組だったが、それまで再三とられていたレシーブ・フォルトを、0—2からとられてファイナルへ。

そして、ファイナル・ゲームが始まる前に、とんだハプニングが起った。

主審が、チュンチュン組が5分のインターバルを正確に守らなかったことを理由に「マッチ・トウ・イイノ・ツチダ」のコール。

結局、シェラー氏の仲裁でゲームは再開されたが、一時はどうなるかと、試合続行を要求する観衆が騒然となった。

再開された第3ゲームも、飯野のスマッシュ、土田のクロスカウンターは快調そのもの。

5—4から、一気に10—4と引き離し、13—6の時点ですでに勝負はあったかと思われた。

しかし、チュンチュン組はまたも猛反撃を開始、懸命にタイトルを死守する構えは、まさに「ネバー・ギブアップ」。

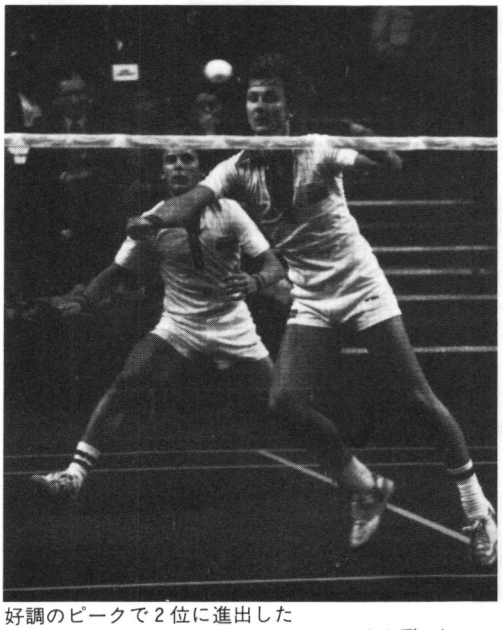
怒涛（どとう）のような追撃と、勝負を意織し出したプレッシャーに、飯野組も歯切れの良い攻撃が影をひそめていった。

それでも、セッティングに持ち込まれてからは、息を吹き返して先手を取り、マッチポイントも先に握って、あのチュンチュン・ワジュディ組を土俵際まで追い込んでいった。

「日本人ダブルスとして初の決勝進出なるか」「チュンチュン組遂に敗れるか」

場内の興奮は頂点に達したが、最後はチュンチュンのスマッシュを受け切れず大熱戦に終止符が打たれた。

ベスト4とはいえ、カールソン組の決勝の内容を数段上回る飯野・土田組は、準優勝に匹敵する〝価値あるベスト4〟を獲得した。



好調のピークで2位に進出した
カールソン、ノルディン

第69回全英選手権

女子ダブルス

# 歓喜、ベラワティ組初優勝

## 徳田・高田組2連勝ならず

▽女子ダブルス一回戦

徳田　2（15―15―3）0　ブリッジ
高田　　（15―5）　パティック（E）

ギルクス
リダー　2（15―8）0　近藤
（E・H）　2（15―2）0　石田

▽2回戦

徳田　2（15―15―0）0　ローズナ
高田　　（15―1）　ブラー（G）　ウ・ズィ

▽準々決勝

徳田　2（15―15―11）0　コーペン
高田　　（15―8）　ビューセコム
（D・H）

テレシア
ダマヤン
ティ　2（15―15―8）0　ペリー
（IN）　（15―10）　スコブガード
（E・D）

▽準決勝

ギルクス
リダー　2（17―14―9）0　サットン
ウェブスター（E）

ベラワテ
ィ・イメ
ルダ（IN）　2（15―15―4）0　スィンゴ
（I）　（15―1）　ガイア

徳田　2（15―15―11）0　テレシア
高田　　（15―6）　ダマヤンティ

ベラワテ
ィ・イメ
ルダ　2（15―10―15―7）1　ギルクス
（15―7）　リダー

▽決勝

ベラワテ
ィ・イメ
ルダ　2（15―12―15―3）1　徳田
（15―5）　高田
（ベラワティ・イメルダ組は、初優勝）

素晴らしいベラワティ・イメルダ組の快進撃だった。

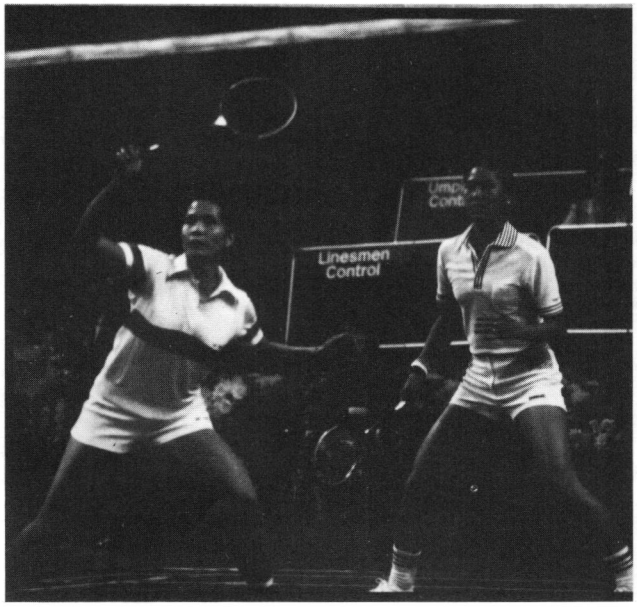
イメルダの前衛での冴えが、ベラワティの強打を引き出し、このコンビ最高とも思える出来栄えをみせた。

日本の期待を一身に受けた徳田・高田組も、1回戦から好調なスタート。

1、2回戦を楽勝した後、まず最初の難敵、コーペン、ビューセコムと準々決勝で対戦した。

立ち上がり、コーペンのスマッシュが的確に決って、徳田・高田組は1―2、3―4とリードを許したが、すぐに追いつくとそれ以後はいつもの日本ペアのペース。

ガードの固い守りを発揮して、



歯車がしっかりとかみあったイルメダ・ベラワティ

12—8と主導権を握ると、コーペン組の懸命の追い上げを、12—11でくい止め、徳田が強打を放って第1ゲームを先取した。

第2ゲームになると、高田のレシーブ、プッシュが見事に決まり6—2、コーペン組も全英でしか見せない執拗な攻撃を仕掛けるが、いかんせん単発、ダブルスとしてのコンビネーションに欠け、8—9とするのがやっと。

後半は、徳田、高田のプッシュが、コーペン、ビューセコム組のボディを強襲して、ベスト4進出を決めた。

徳田・高田組は、準決勝でもイギリスの強豪ペア、ペリー・スコブガードをストレートで降して勝ち上がってきた、インドネシアのテレシア・ダマヤンティ組を問題とせず、余裕をみせて完勝、2連覇へあと1勝と迫った。

これに対して、徳田組の連勝を阻止せんとするベラワティ・イメルダ組も、決勝までの4試合中、落としたのはギルクス。リダー組に対する第2ゲームだけという好調さ。

1月、東京でのワールドカップ準決勝で対戦、このときはイメルダ組に軍配が上がっているだけに、雪辱に燃える日本ペアの試合ぶりに期待が持たれた。

しかし、決勝戦の火ぶたが切って落とされた途端、日本ペアを上回るインドネシアペアの勢いが爆発した。

開始早々、ナタを叩きつけるようなベラワティのスマッシュ、勘の鋭いイメルダの前衛がうまくかみ合って、たちまち7—0と日本ペアの度胆を抜いた。

余りにインドネシアペアの決め手が鋭いため、日本ペアの返球は、きわどいコースを狙いすぎてサイドアウトが多く、後半は自滅の道をたどった。

第1ゲームを失った日本ペアは、第2ゲームになると徳田のスマッシュ、高田の前衛に当たりが出て、後半のベラワティ組の追撃を振り切って、ファイナルゲームへ勝負を持ち込んだ。

第2ゲームを取って、ファイナルゲームも3—0とリードして、徳田・高田組もようやく落ち着きがみられたかと思われたが、ここからベラワティの角度のあるカット、力を抜いたカット気味のスマッシュが、再び日本ペアの乱れを誘った。

6—3と逆転したインドネシアペアは、カサにかかって攻め立て、10—4と一気にゴールへ向った。

レシーブのコントロールに苦しむ徳田・高田組を尻目に、ベラワティ・イメルダ組の理想的な攻撃のパターンが続いた。

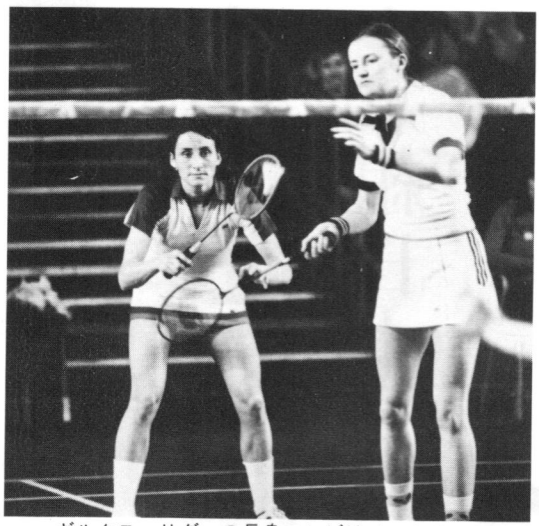
イメルダが面白いように前衛の勘を的中させ、甘い球をベラワティの長身からの強打が襲う。

第2ゲームこそ奪ったものの、徳田・高田組は反撃の手がかりさえつかめず完敗。

初優勝を決めたインドネシアペアは、冷静なベテラン・イメルダと好対照な、ベラワティの汗と涙で濡れた顔が印象的だった。



徳田・高田のがんばり



ギルクス・リダーの長身コンビはベスト4



カーター(クラークソン)・バックハウス

第69回全英選手権

混合ダブルス

# クリスチャン組欧州を一蹴

## 池田・米倉組日本人初のベスト4

▽混合ダブルス1回戦

池田 米倉 2 — 15—6 15—11 0 — プリムダール・ゴットスキー(D)

▽2回戦

池田 米倉 2 — 15—5 15—11 9—15 1 — ニアガード・ボイヤー(D)

池田 米倉 2 — 15—8 15—17 15—8 1 — ジョンソン・バックハウス(C)

▽3回戦

池田 米倉 2 — 15—8 15—13 11—15 15—11 1 — カルトノ テレシア(IN)

クリスチャン・イ 2 — 15—8 15—2 0 — ギルラン ド・パティック メルダ(E)

トレジェット・ペ 2 — 15—4 15—6 0 — 池田 米倉 リー

▽準々決勝

トレジェット・ペ 2 — 15—8 15—11 0 — ルーフブリッジ リー(E)(E)

クリスチャン・イ 2 — 18—14 17—14 11—15 1 — タルボット・ギルクス メルダ

▽準決勝

池田 米倉 2 — 15—13 11—15 15—8 1 — カルトノ テレシア(IN)

クリスチャン・イ 2 — 15—8 15—2 0 — ギルラン ド・パティック メルダ(E)

トレジェット・ペ 2 — 15—4 15—6 0 — 池田 米倉 リー

タルボット・ギルクス(E) 2 — 15—4 15—10 0 — スコブガード(D)

▽準決勝

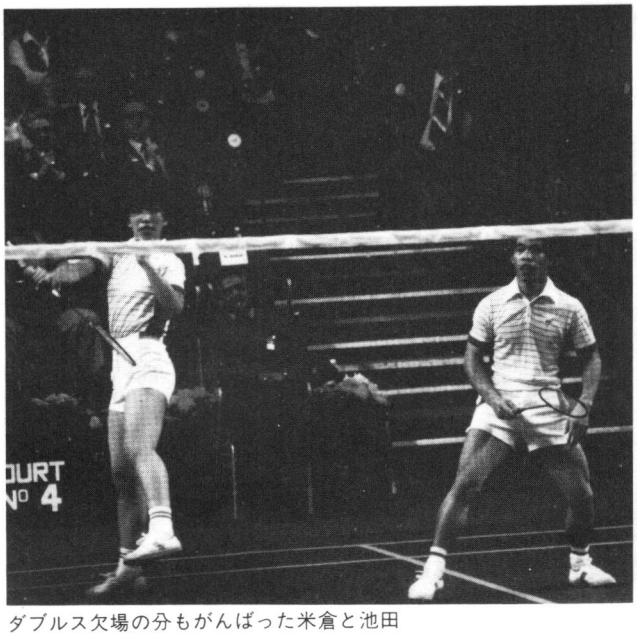
トレジェット・ペ 2 — 18—17 15—1 0 — クリスチャン・イ メルダ

（クリスチャン・イメルダ組は初優勝）

ここ数年、アジアからの参加がなく、ヨーロッパだけのものになっていたこの種目に、インドネシア、日本からの参加があって、華やかさが一段とアップしたようだった。

日本から久し振りの参加は、ベテラン池田と若手の米倉のコンビ。

池田組は、2回戦、3回戦と苦しみながらもファイナル・ゲームを乗り切って準々決勝へ進出を決めた。




ダブルス欠場の分もがんばった米倉と池田

この準々決勝、対カルトノ・テレシア戦は互い力を出し尽す好ゲーム。

1―1と分けたファイナル・ゲーム、14―10と池田組がマッチポイントを握ってから、カルトノのスマッシュが当たり出し池田組のベスト4進出は難産に苦しんだ。

2度のマッチポイントも、力虚しくサービスオーバーを繰り返したが、3度目の正直、セカンドサービスの池田がテレシアに対して効果的なロングサービスを放って、これがテレシアの体勢を崩し、日本人として初めてミックスのベスト4入りを決めた。

植野の辞退でダブルスを欠場した米倉は、池田のリードに導かれて男まさりのスマッシュを連発、女子ダブルスに出場していればという好調さ、まさに江戸の仇を長崎で討つの図だった。

ヨーロッパのオーソドックスな男子が後衛、女子が前衛のミックス・スタイルに比べ、池田組のローテーションは異色の存在だったが、小柄な池田の前衛でのラケットさばき、米倉のスピード感を生かすには的を射た作戦だった。

インドネシアの代表的なダブルスプレーヤーがコンビを組んだ、クリスチャン・イメルダ組も、楽に準決勝へ進出、伝統を誇るイギリスのタルボット・ギルクス組と大接戦を演じた。

この日のイメルダは、集中力を欠いて凡ミスの連続、第1ゲームをタルボット組に先取された後、第2ゲームも3―13、5―14と万事休す。

しかし、冷静なクリスチャンが見事にイメルダをカバーして獅子奮迅の活躍をみせた。

後衛でスマッシュを打ったかと思うと、いつの間にか前衛に出てストップを決めるなど、一人舞台の格好、大差をあっという間に逆転して、試合はファイナル・ゲームへもつれ込んだ。

この第2ゲームが終了した時間は、なんと深夜の11時45分、満員の観衆に遠慮したのか、5分のインターバルを返上して試合が続行された。

ファイナル・ゲームになってもイメルダの動きは重く、タルボット組対クリスチャンといった戦い。

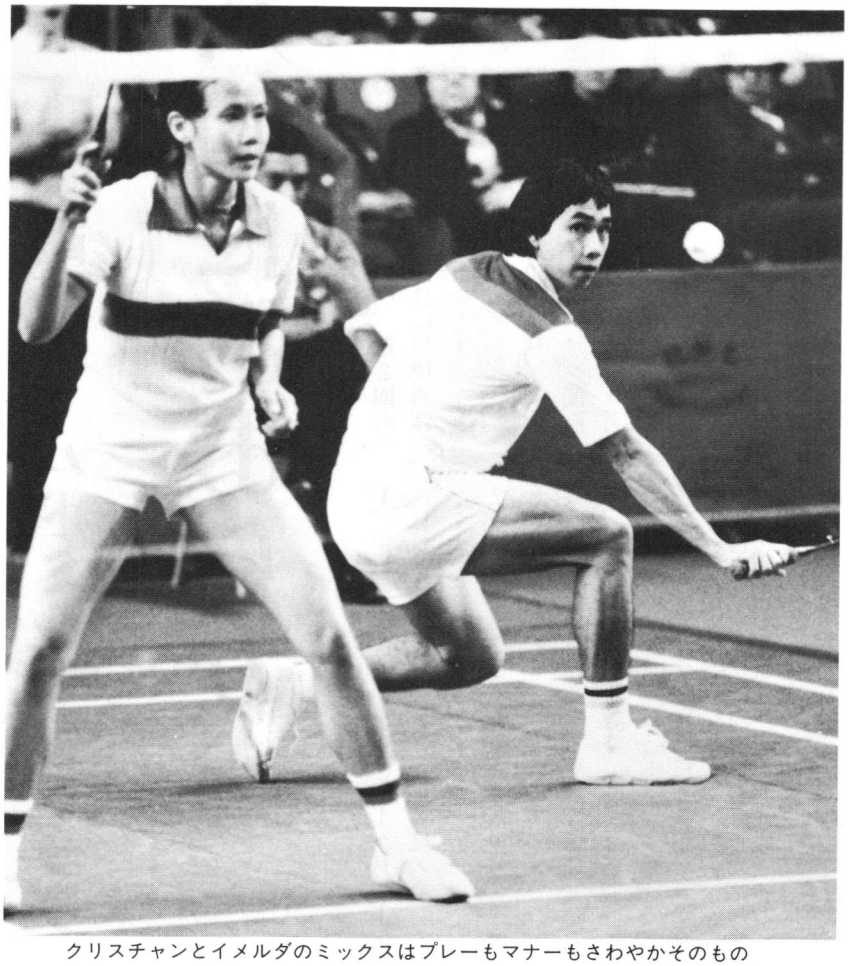
しかし、クリスチャンは縦横無尽に走り回って一人二役を果たし、一度もタルボット組にリードを与えず決勝進出を決めた。

決勝を迎えると、この日はイメルダが別人のような動き、女子ダブルスの優勝に気をよくしたのか、前衛での勘が絶妙に冴えてクリスチャンにお返し。

第1ゲームをパーフェクトに先取し、第2ゲームのトレジェット組の猛反撃を振り切って初優勝に輝いた。

クリスチャン、イメルダともに、世界的なダブルスの名手だけあって、パートナーの調子に合わせてのコンビネーション、精神的な協調性は素晴らしく、初出場とは思えぬ堂々とした風格を漂わせていた。

〈国名表示〉
NZ＝ニュージーランド、E＝イギリス、T＝台湾、S＝スウェーデン、D＝デンマーク、I＝インド、IN＝インドネシア、H＝オランダ、SW＝スイス、C＝カナダ、G＝ドイツ。



クリスチャンとイメルダのミックスはプレーもマナーもさわやかそのもの

われらのクラブ⑲

# ヨーロッパ的におおらか

## 霞ヶ丘・バドミントンクラブ

昭和49年（1974年）5月、東京・国立霞ヶ丘競技場でトレーニングセンターを中心とし、サーキット・ウェート・トレーニング、徒手運動、およびランニングを併用し、長時間にわたり楽しい健康づくりをねらい、年齢と性別に応じた適切な指導を行なう各種教室が開設され、日頃運動の必要性を知りながら、機会のない方々が数多く入会されました。

その中で、トレーニングの一環として、関一誠先生に競技場のトラックの中で、バドミントンを教えていただいたのです。

関先生は、バドミントンの指導のユニークさもさることながら、オールジャパンなどで活躍されているにもかかわらず、私どもに対して少しもおごらず、常に柔和で、かつ有無をいわせずトレーニングに没頭させるなど、「仏の関」と尊敬され親しまれてまいりました。

○　○　○

クラブ結成に至る約1ヶ年の間、週2回のトレーニングでは物足りず、休日に学校の体育館を利用したり、合宿なるものもするなど、ただただ夢中で過ごしました。

いよいよ期も熟した翌昭和50年6月、トレーニングセンターの会員21名をもって「関バドミントンクラブ」を設立、それから2ヶ月を過ぎた8月には、クラブの練習本拠地である国立霞ヶ丘競技場の地名、および隣接する利用体育館名にちなみ、クラブ名を「霞ヶ丘バドミントンクラブ」と正式に命名し、会員30名で今日を迎えています。

○　○　○　○

国立霞ヶ丘競場トレーニングセンターが母体となりました私どものクラブは、結成の仕方が地域のクラブと大変似ていると思います。

私どもは、クラブの活動を始めて3年有余、まだ経験が少ないながらも、目標を挙げてみますと、

1、定められた会則を守り、1ヶ月以上休会したときはOB会員とし、再度入会しやすくする。
2、練習は週1回を原則とし、基本のトレーニングに励む。
3、合宿を春秋、年2回実施する。
4、会員は、バドミントンを愛する以上、ケガ防止のためにも、ランニングを週2回以上行ない、クラブ員としてフルマラソン以外のマラソン大会に、有志で参加しよう。
5、遠隔地へ遠征し、その地域のクラブと親睦試合を行なう。
6、私どものクラブと、定期的に練習や試合を行ない、永く親睦を深めていけるクラブを捜そう。

およそ以上のような項目になります。

その中で、今まであまりできなかった、クラブ同士の交流に重点を置いた、第6項のような活動をしていきたいと考えています。

○　○　○　○

バドミントンの素晴らしさは、今さら申し上げるまでもなく、俗にスポーツ万能といわれる人が、たまたまバドミントンゲームをし、すっかり魅了されたという話をよく聞かされたり（それがあなたご自身であるかも知れませんが）、ご多分にもれず私でも会員のほとんどがそうなのです。

何とも幸いなことに、関先生にはクラブ結成以来、特別会員兼顧問としてキタンのない助言と指導をいただき、ヨーロッパ的なクラブのようにおおらかに発展しつつあります。

バドミントンを母体に、スキー、水泳、マラソン、テニス等々に、友人家族ともども楽しむなど、余暇を上手に使って、スポーツのあと皆んなで食べたり飲んだりのコミュニケーション……生涯をともにするカップルも幾組か生まれました。ときには、何時までもお友達づき合いをしているカップルも……頭を痛めたりいたしますが——。

しかし、いずれにしましても、ゲームでプレーをする恋人ペア、夫妻ペア。お互いにカバーして助け合い、負けてもかばい、いたわり合い、その姿からほのぼのとした家庭生活がうかがわれる〝バドミントン・カップル〟が、ドンドン誕生してもらいたいものです。

○　○　○　○

最後に、私どもクラブ員は利害関係を一切持たず、幅広い年齢層にわたり、常に兄弟、姉妹、そして友人関係を第一に重んじて発展しています。

また、同じ職場の者は皆無で、さまざまな職種に就いており、職業と余暇活動を完全に分離した考えを持っています。

このようなクラブです。交流をお願いできるクラブの方、左記事務所へご一報くだされればまことに幸いです。

〈連絡先〉〒180—03　東久留米市本町2—14—7
小山鎮幸（しげゆき）


全員で岐阜遠征（笠松クラブと交流）



青梅マラソンに参加する勇者も


年に２回の猿ヶ京合宿（赤谷湖畔にて）

◆第7回全国高等学校選抜バドミントン競技会

# 熊本（男子）、大阪（女子）が圧倒的

第7回全国高等学校選抜バドミントン競技会は3月23日から2日間、東京・駒沢体育館で開催された。

インターハイのすう勢を占う意味でも内容が注目されたが、男子は昨年のインターハイ・チャンピオン権藤を擁する熊本県が、女子も同じくインターハイ・チャンピオン北田をメンバーに加えた大阪府が、それぞれ圧倒的な強さをみせた。

しかし、両チームともに、チャンピオンに頼るのではなく、この二人をしのぐのではないかと思われる有力選手を育て上げ、すべて2―0のストレート勝ちを収めた。

男子団体戦の熊本優勝はそのチーム力からみて当然であった。インターハイ・チャンピオンの〝小さなエース〟権藤をダブルスに専念させ、シングルスは最近にわかにその実力を見せはじめた井上にまかせた戦いっぷりは他チームの追随を許さなかった。

この熊本に対して、かろうじて抵抗したのが茨城県である。権藤・村上のコンビに対し、第2ゲームを取り、ファイナルに持ち込みヒヤッとさせた。

熊本のエース井上は熊本商科大学付属高2年生ながら県内ではすでに権藤をしのぐといわれ、土田（電電東京）を思わせるサウスポーからの切れの良いスマッシュ、カットを武器に勝ち進み、将来に大いに期待をもたせた。

一方女子も、大阪の楽勝。事実上の決勝と思われた準決勝の対熊本戦でも、北田・冨田のダブルスは、北田の好リードで冨田に自由に打たせ、川添・高峰をよせつけなかった。

シングルスの植田は小柄ながち、ミスの少ないプレーヤーで、巧みなレシーブと配球の良さで久保中の追撃を振り切った。

決勝に勝ち上がってきた埼玉は、いかんせん実力差がありすぎ、ポイントをどの程度あげられるかという状態であった。

個人戦でも男子の熊本、女子の大阪の力はズバ抜けており、単複とも独占した。

男子ダブルスの権藤・村上はファイナル・ゲームに持ち込まれながらも要所要所をしめて優勝。村上の好調さもあったが、相変らず権藤はコート内を跳んでおり、インターハイでの活躍が期待される。

しかし何といっても注目されるのは井上の今後である。ストレート勝ちのみで優勝したが、サウスポー特有のストロークを生かせる体力を備えれば、インターハイ優勝も夢ではあるまい。

女子は大阪と熊本の争いとみられたが、そこに割ってはいったのが、北海道札幌静修の只野である。決勝こそ植田に完敗したが、熊本の久保中を破ったあたりはなかなか見事なプレーぶりであった。

昨年のインターハイ・チャンピオン北田は今年も断然の強さを見せ、兄・法大冨田章夫ゆずりの長身を武器にがんばる冨田をうまくリードする余裕をみせてダブルスに楽勝した。

しかしシングルスも現在のところ文句なしの感じである。植田も無駄の少ないプレーで優勝したが、よほどスタミナをつけ、ノーミスのプレーに徹しないと北田の堅塁をおびやかすのはむずかしそうである。

いずれにしても、今年から二複一単に形式が変わったインターハイをめざしてさらに練習に次ぐ練習を期待したい。

各種目スコアは次のとおり。

◆男子団体戦

▽準々決勝

茨城 2―0 福井
香川 2―0 広島
奈良 2―0 北海道
熊本 2―0 岐阜

▽準決勝

茨城 2―0 香川
朝香 15―15 15―8 11―15 岡野 2
飯野 15―12 小西 1
木村 15―2 15―4 松木 0
熊本 2―0 奈良
権藤 17―15 15―4 貴田 0
村上 15―3 15―2 古賀 2
井上 2―0 浜石

▽三位決定戦

奈良 2―0 香川

◆女子団体戦

▽準々決勝

大阪 2―0 東京
熊本 2―0 石川
高知 2―0 青森
埼玉 2―1 岡山

▽準決勝

大阪 2―0 熊本
北田 15―7 15―5 川添 0
冨田 2 高峯
植田 11―12 11―7 久保中 0
埼玉 2―1 高知
服部 15―9 15―12 高鴨 0
葛西 2 清藤
川口 11―8 10―12 11―1 野本 2
服部 2 高鴨
11―7 11―8 0

▽三位決定戦

熊本 2―0 高知

▽決勝

熊本 2―0 茨城
権藤 15―8 8―15 15―2 朝香 1
村上 2 飯野
井上 15―7 15―10 木村 0
2
貴田 15―11 15―0 岡野 0
古賀 2 小西
浜石 15―8 18―13 松木 0
2

川添 高峯 2 — 15 15 2 — 7 3 15 — 1 服部 高鴨
久保田 2 — 0 野本
大阪 北田 冨田 2 — 15 15 1 — 4 0 服部 葛西
植田 2 — 11 11 4 — 2 0 川口 埼玉

▽決勝

権藤 村上 2 — 15 12 15 — 9 15 12 — 1 松田 中鉢
大瀬 村上 2 — 0 黒川（福井）
朝香 中鉢 松田 2 — 0 飯野（茨城）
貴田 古賀 2 — 0 千葉（広島）
岡野 小西 2 — 0 長谷川（東京）
佐藤 小西 2 — 0 長谷川（東京）

▽準決勝

▽準々決勝

◆男子ダブルス

岡野 小西 2 — 15 18 10 — 12 14 15 — 1 古賀 貴田
中鉢 古賀 2 — 15 15 12 — 8 15 — 0 松田 貴田
岡野 小西 2 — 15 15 3 — 10 6 15 — 1 権藤 村上
貴田 古賀 2 — 15 15 — 8 12 15 — 0 松田 中鉢

▽三位決定戦

▽決勝

◆女子ダブルス

川添 高峯 2 — 15 15 8 — 5 0 高峯 川添
木村（茨城） 山根（広島） 2 — 0 山崎（東京）
浜石（奈良） 松木 2 — 0 松木（香川）
戸崎（岐阜） 井上 2 — 0 井上（熊本）
北田 冨田 2 — 15 15 — 5 8 0 高峯 川添
下村（福井） 2 — 0 木村（茨城）
松木 2 — 0 浜石（奈良）
井上 2 — 0 戸崎（岐阜）

▽準々決勝

▽準決勝

▽決勝

◆男子シングルス

村松 2 — 0 野本
久保中 2 — 11 11 3 — 1 0 村松 植田 2
只野 2 — 12 11 6 — 9 0 久保中
植田 2 — 11 11 3 — 2 0 村松 植田 2
只野 2 — 11 11 1 — 0 0 只野 植田 2

▽三位決定戦

▽準決勝

▽決勝

◆女子シングルス

北田 冨田 2 — 15 15 8 — 5 0 高峯 川添
下村（福井） 2 — 0 木村（茨城）
山崎 2 — 15 17 — 8 15 0 下村 山根（広島）
井上 2 — 15 15 4 — 1 0 松木 浜石（奈良）
山崎 2 — 15 17 — 8 15 0 下村 山根（広島）
井上 2 — 15 15 6 — 1 0 山崎 戸崎（岐阜）
下村 2 — 15 13 15 7 — 7 15 1 松木 浜石（奈良）

▽三位決定戦

▽準決勝

▽決勝

◆女子シングルス

小路 宮崎 2 — 15 15 5 — 7 0 服部 葛西
北田 冨田 2 — 15 15 6 — 1 0 宮崎 小路
葛西 服部 2 — 0 奥田（愛知）
高峯 2 — 15 15 7 — 4 0 服部 葛西
川添 高峯 2 — 15 15 7 — 4 0 服部 葛西
葛西 服部 2 — 0 奥田（愛知）
奥村（青森） 林 2 — 1 高峯 川添
葛西 服部 2 — 0 奥田（愛知）
北田 冨田 2 — 15 15 6 — 1 0 宮崎 小路
小路 宮崎 2 — 15 15 5 — 7 0 服部 葛西

▽準々決勝

▽準決勝

▽三位決定戦

▽準決勝

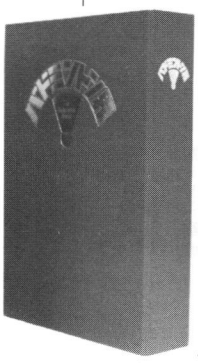
▽決勝

◆女子シングルス

只野 2 — 1 及川（東京）
久保中 2 — 0 丸井（愛知）
植田 2 — 0 原田（岡山）

▽準々決勝


# 専用合本バインダーどうぞ



バドミントン界も間もなく創刊10年を迎えます。その10年間には石油ショックによる紙不足や、インフレによるコストのアップなどいろいろありました。しかし読者の皆様の力強いバックアップによって、今年から増ページを実現することができました。

本誌は毎月きちんと揃えて保存すれば、バドミントンの百科辞典となるものです。

そのために本誌一年分12冊を、穴をあけたり、ノリを使ったりすることなく、簡単に保存しておくことのできる専用合本バインダーを用意してあります。

デザインは写真のとおりですが、表紙は濃紺の特殊レザーに、タイトルを銀パクで押したものです。クリップも丸味をつけて扱いやすくした丈夫で長い間の保存に耐えられるものです。

専用合本バインダーは一冊定価500円ですので希望の方は左記の送料を加えて、本誌巻末とじこみの振替用紙に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。

（送料・一冊＝300円、三冊まで600円、四冊以上すべて700円）

バドミントン界編集部

# 泣くな!!飯野・土田。試合内容も立派だったが、あのフェアな態度は永遠に全英の語り草になる!!

今年の全英選手権、日本選手団には、良しにつけ悪しきにつけ波乱にとんだ大会となった。

女子のダブルスでは、本命中の本命、徳田・高田組が優勝を逃がし、シングルスも湯木、徳田、近藤、米倉の四強をもってしてもタイトル獲得はならず、ユーバー杯保持国としては寂しい成績に終わった。

しかし、嬉しい誤算といっては失礼だが、思わぬ好成績に驚かされたのも事実。

男子ダブルスの飯野・土田組が、前哨戦ともいえるデンマーク・オープンの制覇に続いて、本番・全英選手権でも持てる力を十二分に発揮、インドネシアの強力コンビ、チュンチュン、ワジュディ組からマッチポイントを握るなど、今大会最もエキサイトした試合の主役を演じた。

また、混合ダブルスの池田・米倉組も、あれよあれよという間にベスト4へ進出、植野とのダブルス欠場の穴を埋めるように、米倉の若さが池田の巧みなリードによって全開、初コンビとは思えね目まぐるしいローテーションを見事にこなし、日本人としては男子ダブルスとともに初の入賞を果たした。

飯野・土田は、試合直後は虚空を見上げて呆然としていたものの、正気に戻るやいなや「クヤシーッ」「チクショー」の連発。

「あと1本取っておけば」「優勝のチャンスだったのに」と、地団駄踏むことしきり。

一夜明けても、興奮はさめるどころか、悔しさとなってつのる一方の面持ちで「ヤケ酒を飲んだけど、眠れなかった」が、両者の正直な心境をよく現わしていた。

しかし、敗れたとはいえ、飯野・土田のコンビは、決勝へ進出したスウェーデンの新鋭カールソン・ノルディン組に優るとも劣らない清涼感を、満員の観衆に与えたに違いない。

問題の試合、対チュンチュン組との一戦は、第2ゲーム目からにわかに風向きが怪しくなっていた。

選手対選手の試合に、主審が割り込んできたのだ。

チュンチュンが2度、レシーブ・フォルトを取られ、首をかしげ、ゲーム・ポイントからもワジュディがレシーブ・フォルトを取られて、ファイル・ゲームへもつれ込んだ。

そして、5分間のインターバルに、わずか1分ほど遅れたチュンチュン組を、振り返ろうともせず「マッチ・トゥ・イイノ・ツチダ」とコールしたのだ。

厳粛さを誇るイギリスの伝統か、はたまた他意があってのことかわからないが、会場は足を踏み鳴らす人、口笛を吹く人で騒然となった。

ここで、名誉職ともいえるシェラー氏が登場、飯野・土田の了解を得て、主審を交代、試合の続行を命じた。

このときの、飯野・土田組の態度が実にあっぱれ。

シェラー氏が乗り出してくる以前に、人差指を高々と挙げて、もう1ゲームやりたいという意志を観衆にアピール。そして、コートサイドに身をひそめて、事の成行を静観していた。

史上最強ともいえる、チュンチュン、ワジュディ組を、あと1本まで追いつめた試合内容も立派だったが、それ以上にこのフェアな態度、スポーツマン・シップの真髄を見せた行動の見事さは、割れんばかりの拍手によって証明されていた。

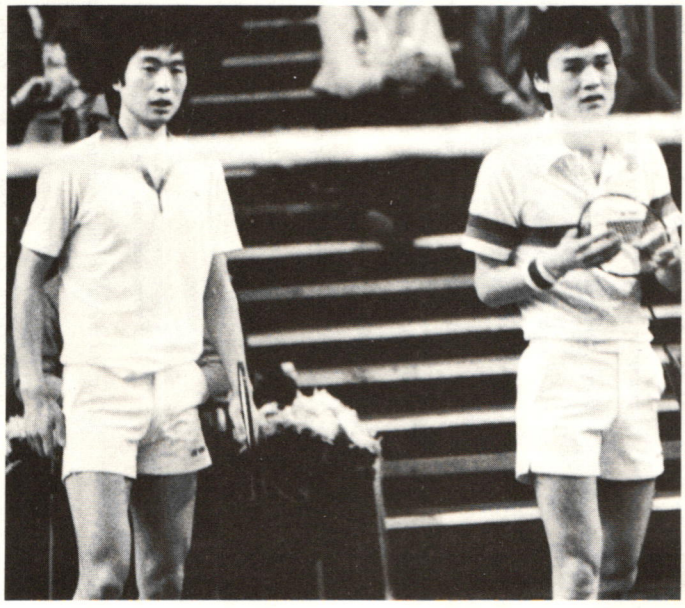
なにはともあれ、デンマーク・オープンを制し、全英出場のセレクションで1位になったと噂のあるカルトノ・ハリヤント組を破ったのだ。

また、チャンスはやってくるに違いない。

その手応えを、十分に感じたからこそ、フェアな態度をとる余裕があったのかも知れない。

大事なトマス杯を控えた飯野・土田にとって、このヨーロッパ遠征ほど、実りの多い遠征はかつてなかったのではないか。

〝若手〟といわれていたのが今はもう立派な大人のプレーヤーに成長したことを、実証してくれたわけである。







泣くな!! 来年がある

# TOKYO LETTER

by Miwako Wakazono & Carolyn Matsuura

*The All England Championships has come to an end and the players have returned to their own countries and to training again with their hopes pinned on next year's tournament.*

*We would like to extend our heartfelt congratulations to Denmark's L. Köppen. She is considered to be, both in name and reality, the best player in the world and we were quite surprised to learn that this is the first time she has won the All England Championships.*

*Indonesia's outstanding record of victories in four events out of five also came as a complete surprise to us.*

*This is the first year that the Japanese players have come back from the All England Championships without winning any titles. We, as fans, are quite disappointed, but we should be happy that many of them, both men and women, were able to advance to the higher ranks. We wish them success in next year's tournament.*

*In Japan, April is the month when everything begins anew. Students are promoted and begin a new academic year, companies welcome new employees, and everyone begins to walk down a new path.*

*At this time of the year, there are no big national tournaments in Japan. There are, however, many small local tournaments, held in the different prefectures and cities and towns. Regardless of their ability, badminton lovers gather and hold various kind of tournaments.*

*As much as we would like to see many of these tournaments, time does not permit us to do so, but we were able to go to the Kanagawa Prefecture Championship Tournament.*

*Five events, the men's and women's singles, doubles, and mixed doubles were divided between two cosecutive Sundays and held on March 18th and 25th.*

*Definitely worthy of special mention here is the participation of Mr. and Mrs. Sugita, whose combined ages total 90, among the younger players in the mixed doubles. On top of that, not only did they participate, but they also performed a superhuman feat by winning the finals against a younger team after taking the final game at the end of a setting.*

*Needless to say, when they were younger, Mr. Sugita represented Japan in the Thomas Cup and Mrs. Sugita has won the All Japan Campionship.*

*Nevertheless, in spite of the fact that they are past forty, their life is one of constant training and continuous effort. We take our hats off to them.*

*From now on, the center of our attention will be the Thomas Cup, to be held in Jakarta from May 24th.*

*Japan's first match will be against Canada, the winner of the Panamerican Zone, and we hope to do our best.*

# G空間のハリケーン

カワサキの技術が、
宇宙素材＝グラファイトをラケットに変身させた。

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



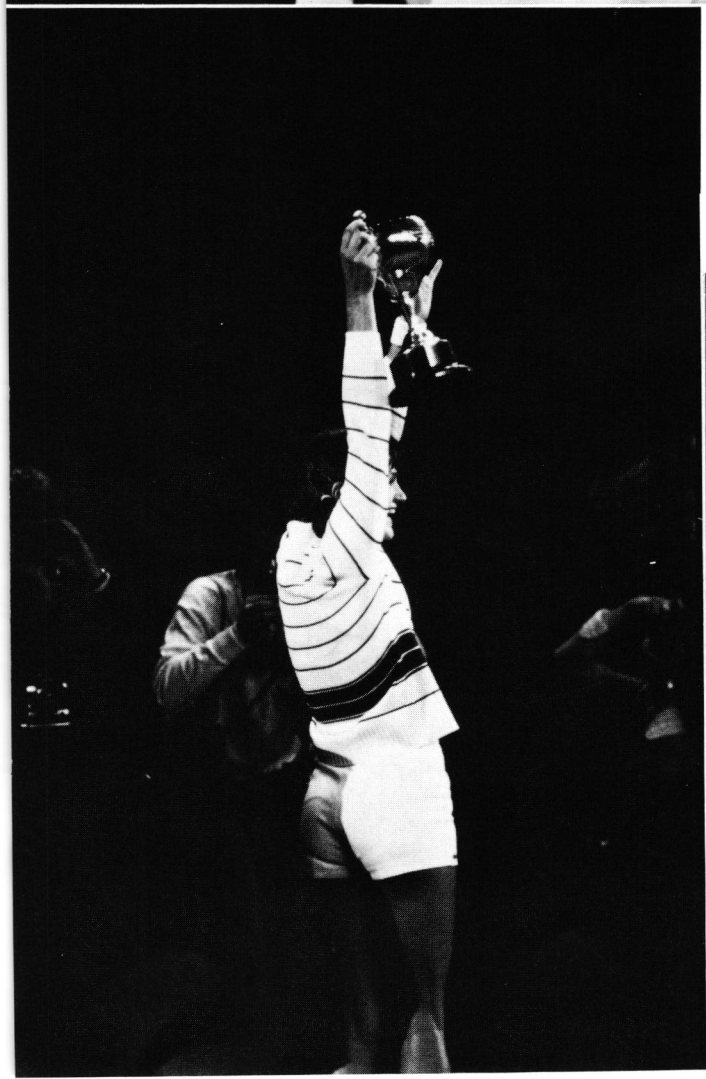

**エイトシックス**
**発売記念セール**
**ダブルプレゼント**
3月1日⇨5月20日まで実施中



**世界初のオールグラファイトラケット**
**エイトシックス**
**新発売**

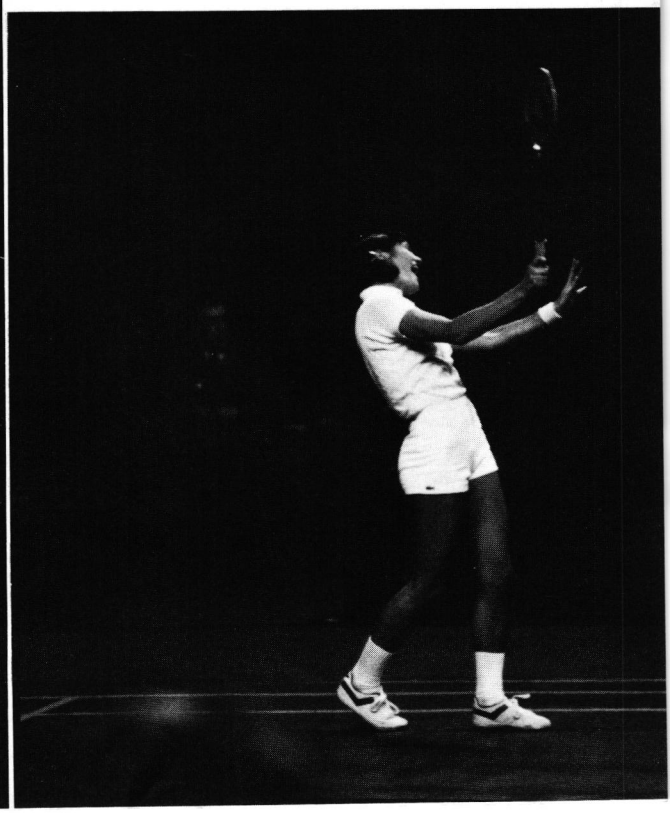
グラファイトフレーム・グラファイトシャフト/黒(ケース付)
フレーム価格12,000円
ガット張り上り価格12,900円(ロンシープ)





## ALL-ENGLANDのヒーロー、ヒロイン

立派に成長したリム・スイ・キンの優勝は力強く、圧倒的だった。一方、リーン・コーペンは今まで何度もチャンスがありながら、いつも不運に泣かされてきた。そして今回ついにその夢にまで見た栄光を手にした。優勝決定の瞬間、そして高々とカップをかかげる姿にその嬉しさがあふれている。






とんでこないか

町にウワサ広げて実施中!

# ヨネックスカーニバル

なんと三宅一生デザイン スポーツウエアをはじめ毎月3,000名さまプレゼント!

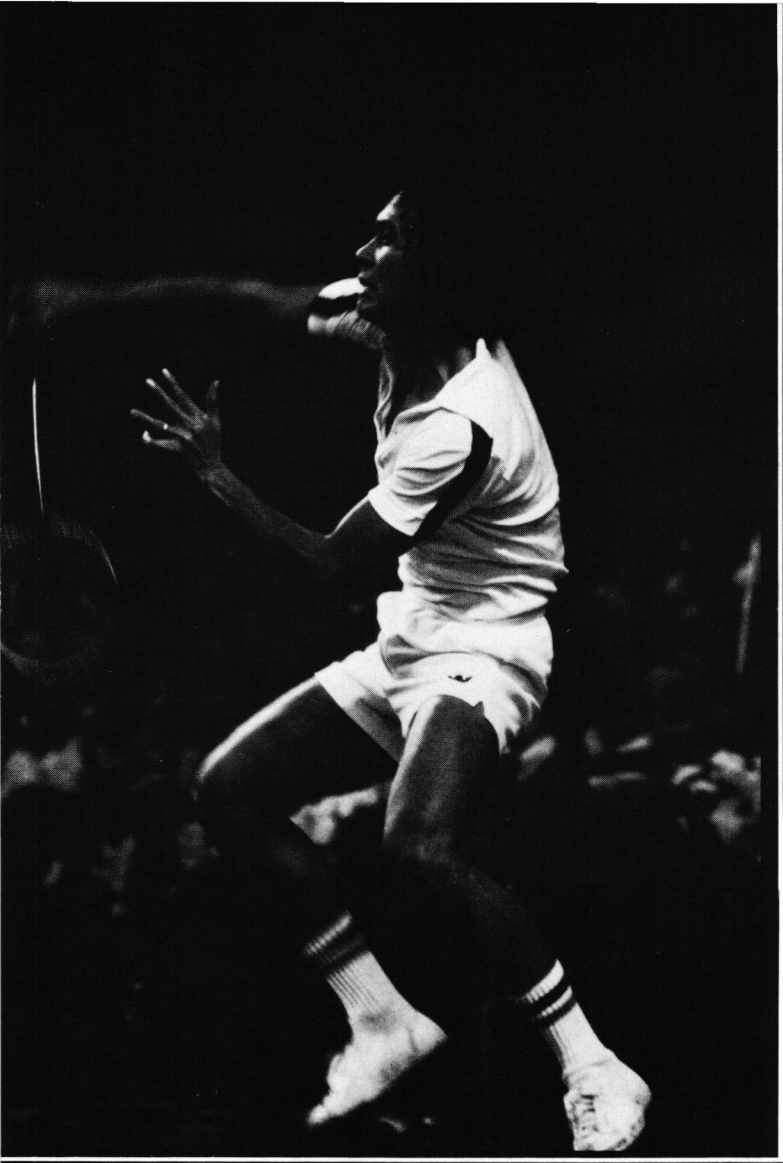
いま、ヨネックスブランドのテニス・バドミントンラケット、スポーツウエア、バッグ、シューズのうちどれをおもとめになっても、抽選で毎月3,000名の方に下記のすてきな賞品をプレゼントします。詳しくは、お近くの有名スポーツ店でどうぞ。

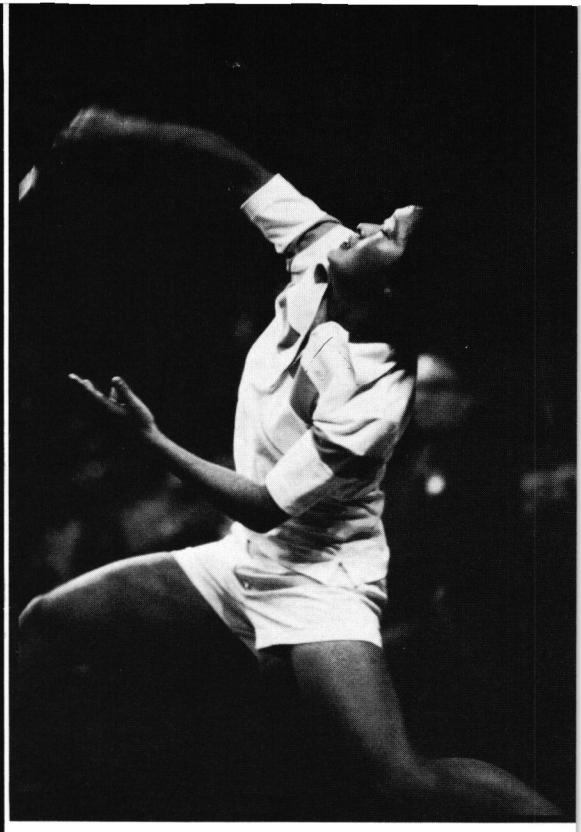
●実施期間 昭和54年2月1日～6月30日(毎月、月末締切)●応募方法 官製ハガキに、お買い上げ店名を記入し「プライスカード」を貼って下記へお送りください。●賞品 特製ポット・ウエア・バッグ・タオル・ネクタイのうち1点。

●送り先 〒113東京都文京区湯島3-23-13ヨネックススポーツ カーニバル係

TENNIS, BADMINTON RACKETS & WEAR.

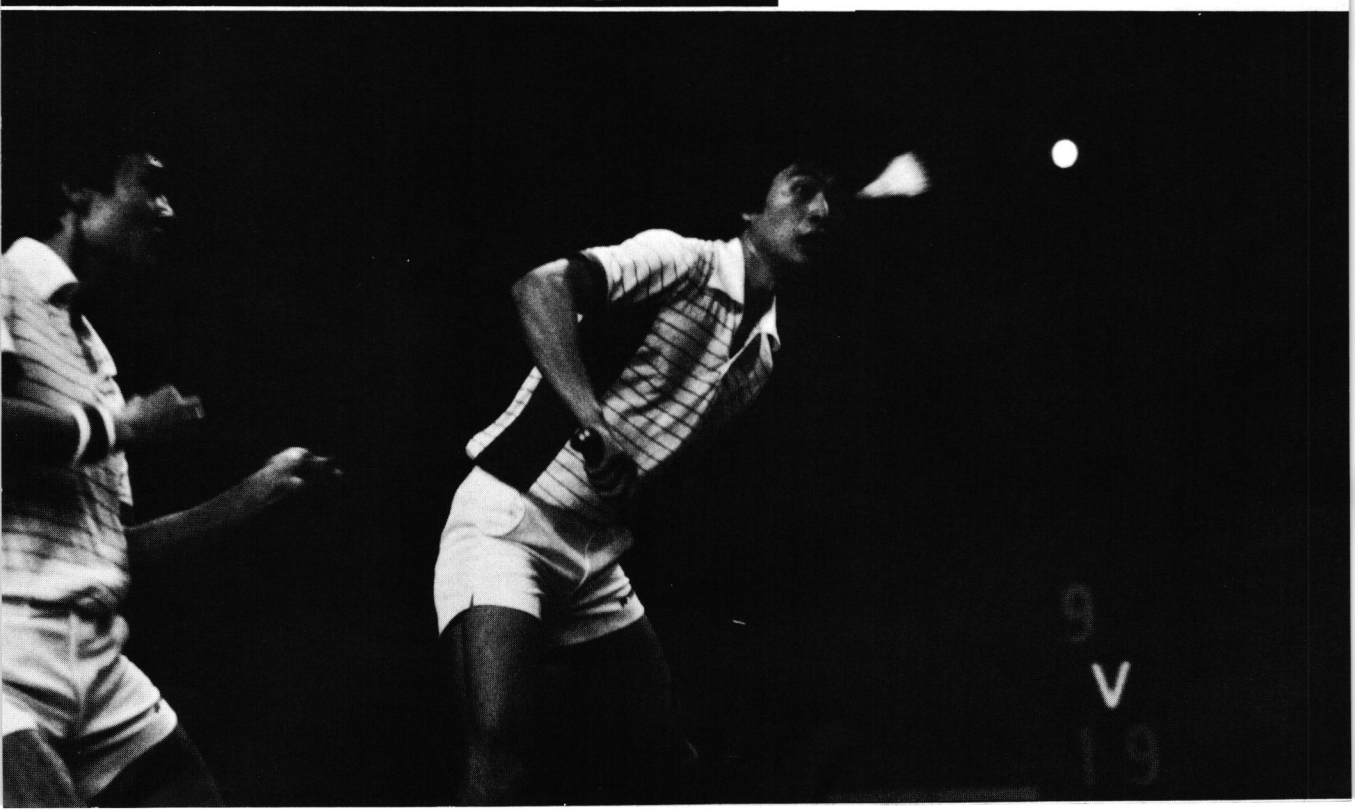
YONEX®

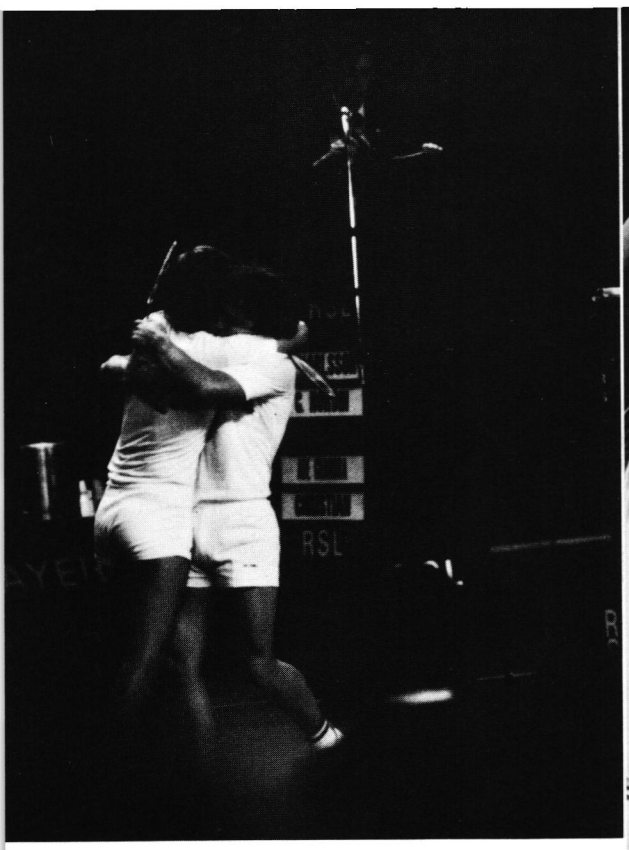


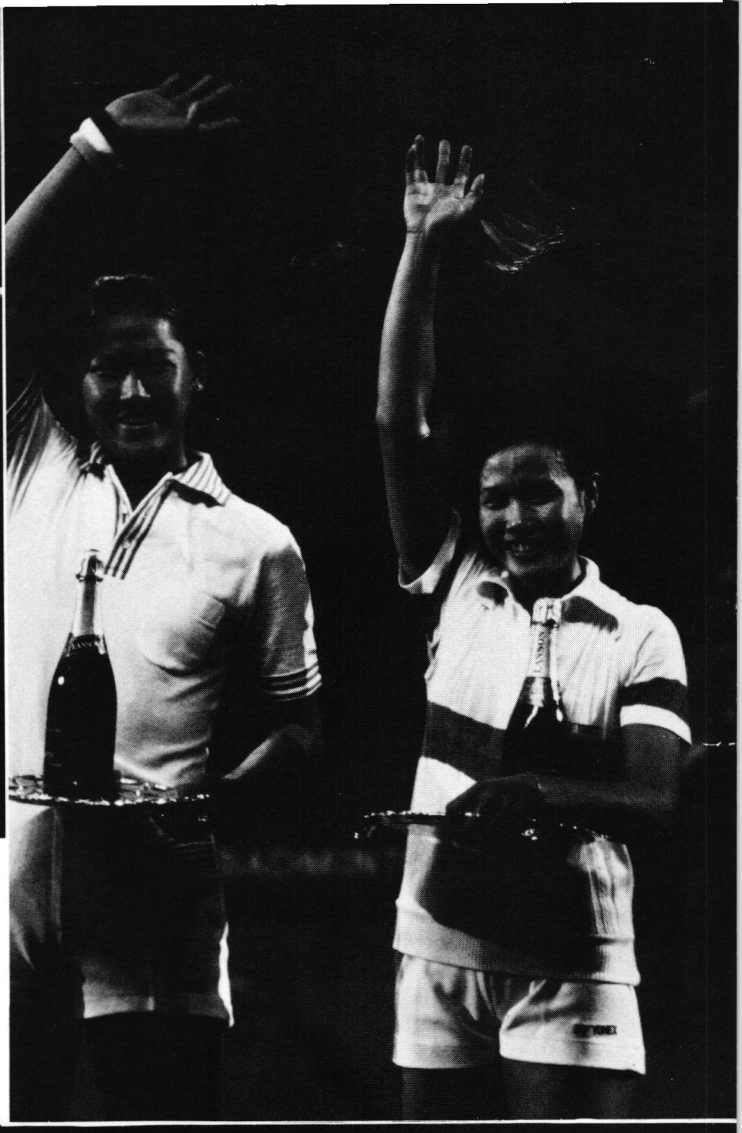


リム・スイ・キンの強烈なジャンプ・スマッシュ、〝どうだ、これでもか〟といった振りにラケットも大きくしなう（写真左上）

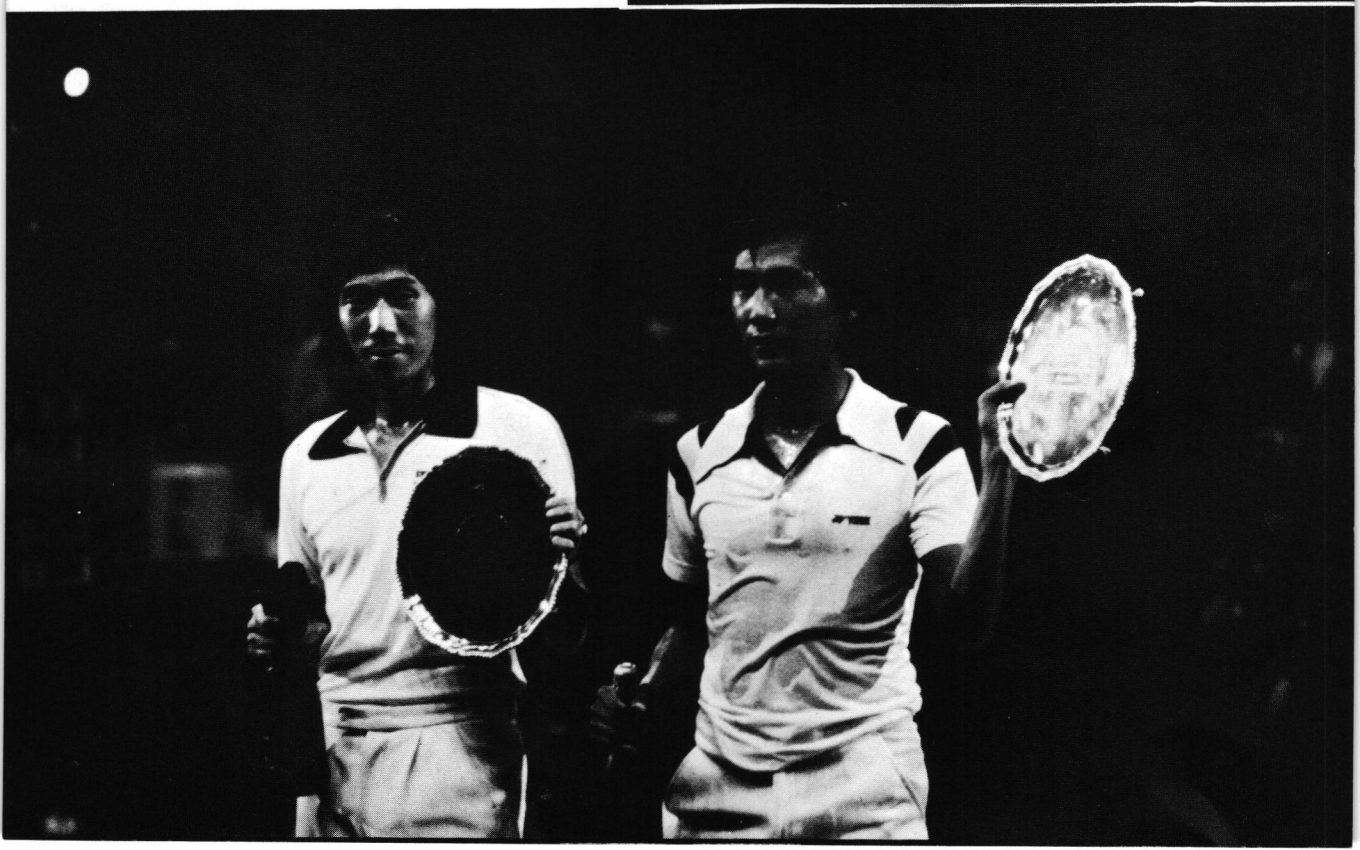
近藤の健闘もあと一歩及ばなかった。しかしまだ彼女には若さがある。来年に期待したい（写真右上）飯野・土田組もあと１本に泣いた……（写真下）







感激の初優勝をとげ、観客に大きく手を振るイメルダとベラワティ（写真右上）
カールソンとノルディンは準決勝でインドネシアの雄・クリスチャン・チャンドラ組を降し、思わず抱き合う（写真左上）
チュンチュン・ワジュディ組は優勝しても、すっかり落ち着いたもの（写真下）




Flemming Delfs
フレミング・デルフス（デンマーク）
興奮する。
YONEX®

## 特別プレゼントセール中！

いま、B-8500を3本まとめてお買い上げのかたに
もれなく特製ポット進呈中！期間は6月30日まで。



# いま、世界は95gに

なんと100g以下のフルカーボンシャフトラケットの登場。世界で最軽量のラケット、カーボネックス8です。フレームは特殊アルミ合金。シャフトはフルカーボン。強烈なパワーを秘めながらこの軽さは、まさに世界新。ヨネックスならではのクリエイティブです。いま、バドミントンプレイが二歩も三歩も前進します。このヒーローの登場で。

ラケット重量極限の壁をついに破った
FULL CARBON SHAFT RACKET

## B-8500 Carbonex8

¥8,800 カーボネックス・エイト（3色 イエロー・オレンジ・グリーン）
重量表示 1-U（100g～95g）・2-U（95g～90g）

エッコのバドミントンライフ

⑱ 梅野尾悦子

# 三連覇できず、新しいダブルスに改造

一九七四年、デンマークオープン選手権でダブルス優勝を果たし、やや不安な気分のままロンドン入りをしたのです。

毎年この頃になると、ロンドン市内の公園や、郊外には、桜の花に似たアーモンドの花や、クロッカス、スイセンなどが、どんよりと陰気なイギリスの冬に、ひときわ愛らしく春を待ちわびるように咲きそろいます。

全英選手権開催中は、毎日プログラムが変わり、次の日には、前日の試合結果がすでに印刷されている手際のよさで、伝統ある大会を運営する協会にとって、自慢したいものの一つなのでしょう。

二、三回戦を無事通過し、三日目最後のダブルス準決勝は、またもボクソール・ウェトナール組です。全英三連勝を胸に秘めた私たちは、この難関をどうにか突破しなければなりません。

しかし、どうしても一つ波に乗りきれないのです。デンマークオープンが終わって感じた私の不安は的中していたのです。

それは、遠征中の初めの段階、デンマークオープンで調子をあげすぎてしまったのです。もちろん初めから好調であることは必要ですが、デンマークオープンと全英までに一週間ほどの期間があり、そのまま好調を持続して全英にベストまでもっていけるようなペース配分、コンディション作りに失敗したのです。一度ペースを落とせばよかったのかもしれません。

とうとう準決勝で息をきらせてしまったのです。最後まで反撃の糸口を見つけられず、三連勝の夢は無残にも破れてしまいました。

たった数日間の大会で一年間の全てを出しきる、自分のもっている力を最大限に発揮することが、どんなにむずかしいかを改めて思わずにはいられませんでした。

この敗北の痛さをかみしめ、これから翌年の全英までの一年間をがまんして、毎日を積み重ねていくしかありません。

ダブルスは、何よりも、パートナーを信じることから始まるというのが、私の信念です。パートナーの性格を知り、パートナーが持っている全てのショットを覚えること、パートナーの試合に臨む気持ちを、パートナーが出してくれる一球一球、全てを信じることからダブルスが生まれてくると思うのです。

どんなに負けていても、最後の一球まで、互いに声をかけあって、粘り抜いて捨てないことです。

パートナーのミスは自分のミス、負けた時は、どちらか一方が不調だったから負けたのではなく、二人が負けたのです。

逆に、自分が調子良かったのは、パートナーが出してくれた配球が良かったからこそ、



出張先でも練習を欠かさなかった



デンマークのクロンボー城で

ナイスショットが生まれたのです。

全英の失敗は、私たちに、もう一つの課題を与えてくれました。それは、今までのように若さと馬力だけを頼るプレーでは、もう通じていかないということでした。

もっとダブルスの味つけを濃くしていかねばなりません。力で勝っていくプレーから、型の中から勝っていくことを考えていく必要があります。

そのためには、もっと研究をし、新しいものを身につけ、財産をどんどん増やしていくことしかありません。

いつもコーチしてくれる人がいない私たちには、大変なことです。もう一度初心にかえって、他の人のプレーを見直し、自分たちのダブルスの反省と、話し合いを心がけ、トレーニングも欠かしませんでした。

また、仕事の出張先の練習でも、一回ずつ課題をもって臨み、少しの時間の余裕があれば、トレーニングをしたりもしました。

こうして長い一年が知らぬ間に過ぎ、翌一九七五年の全英選手権で、イメルダ・テレシア組を決勝で破り、三度目の優勝を手にしたのです。




# RSL VICKTOR

# 全国大会使用球に公認。

## ヘアピンショットを可能にしたナイロン球

全英大会の公認球として世界的に有名なRSL。このRSLが開発したナイロンシャトル《RSLビクター》が、いまプレーヤーの間でたいへんな評判。これまでナイロン球の限界といわれてきたヘアピンショットを、この《ビクター》は、水鳥球と同じ飛行で打つことができます。シャトル革命を予測させるナイロン球による自在なネットプレー——世界中のプレーヤーが拍手で迎えました。

## 学生プレーヤーに朗報！

このRSLナイロンシャトル《ビクター》が、全国中学生大会の使用球として日本バドミントン協会の公認を受けました。続けて、高校・大学・一般の大会へとその輪が広がっていいくことが予想されています。
性能が水鳥球に匹敵するばかりか、耐久力と打球感ではそれをはるかにしのぐこのRSL《ビクター》。とくに練習量の多い学生プレーヤーにとっては魅力といえましょう。
ゴーセンでは、このRSL《ビクター》を一手に販売。日本のプレーヤーにお届けしています。練習・試合にぜひお試しください。

**No.256 RSLビクター**

**10個　¥2,450**

**全国中学大会公認使用球**

**日本バドミントン協会検定合格球**

3月号 RSLビクターモニター当選者

北海道／前沢敏昭　青　森／鈴木喜一　秋　田／山本辰夫
埼　玉／山田さと美　千　葉／藤田明男　愛　知／三輪　正
兵　庫／石塚英二　山　口／中田典子
山　口／三浦ふみ子　長　崎／大　島　篤　他10名（敬称略）

GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎ (0762)47-0200(代)







オールカーボンシャフトとウッドフレームによる

# 世界初の超軽量 XL級 105g〜109g

コンピュータとキャリアが生み出した
100％カーボン・ロングテーパーシャフト
軽さと強さをかねそなえた
スーパーラケットの登場！

## Carbon Slugfest

カーボンスラッグフェスト　B-85・B-80

日本バドミントン協会推奨

■プレーヤー待望のパーフェクトラケット完成

より高度に、そして多彩になっていくバドミントンのプレーテクニック。そのすべてのプレーに一本のラケットがパーフェクトに対応します。ゴーセンが開発した100％カーボン・ロングテーパーシャフト『カーボン・スラッグフェストB-85・B-80』。プレーヤーの強い要望に応えた理想のラケットの登場です。

■電子頭脳が答えた理想の構造

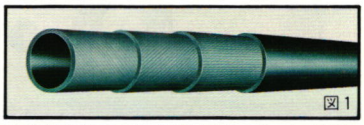


図1

20世紀の科学が生んだ最高のラケット素材《カーボン》。このカーボン繊維を、ラケットの生命といわれるシャフト部分に使用。この素材特性をいちばん効果的に発揮させるため、図①のように方向の異なる繊維を3層に組み合わせました。この構造図式は、理想のラケットを創り出すという前提のもとに、コンピュータがはじき出した答えです。

さらにもう一歩理想に近ずくため、この構造によるシャフトのロングテーパー化をコンピュータは指示しました。

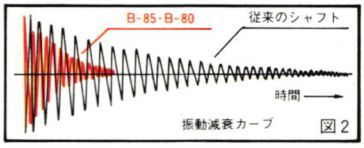


図2

最良の理論——これを製品として実現させたのはゴーセンの技術力。カーボン究極の特性を安定して確保し、世界でも類を見ない100％カーボン・ロングテーパーシャフト化に成功しました。

■カーボン・ラケットの決定版

細部にわたる測定テスト。このB-85・B-80はすべての点で他のカーボン・ラケットをしのぎました。カーボンの特性をこれほど完璧にいかしきったラケットは見当りません。



■B-85・B-80の特色

- 超軽量XL級(105g〜109g)
- 高反発／高弾性（強く、鋭い打球）
- 高強度(優れた耐久性)
- 迅速な振動減衰性（打球後のラケットの安定。図②参照）
- 高応答性(打球の手応え)まさに長所総づかみ。カーボン・ラケットの決定版！堂々と登場です。

カーボンスラッグフェスト
B-85(黒)・B-80(白) ¥7,500

- バンブー・ウッド合板
- 100％カーボン・ロングテーパーシャフト
- カバー付




GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎ (0762)47-0200(代)

3月号 ウインテックスワイヤーモニター当選者名

宮城／鷲野寛市　宮城／飯野民雄　長野／鈴木覚
埼玉／互静夫　三重／山口香奈良／中村稔
鳥取／松本浩二　山口／中原弘子
山口／岡村善光　大分／谷上和年　他10名（敬称略）

ゆっくり、じっくり、品選びができる

# フロアすべてが バ・ド・ミ・ン・ト・ン



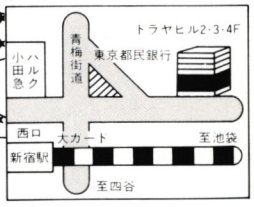

バドミントン用品なら、なんでも揃う。
ファン待望の専用フロア。
ウインザー ラケット ショップ。
新宿店4階に登場！




毎月曜日定休・祝祭日を除く

## 新宿店

東京都新宿区西新宿7−10−20(トラヤヒル2.3.4階)　TEL 03-363-6848 〒160
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



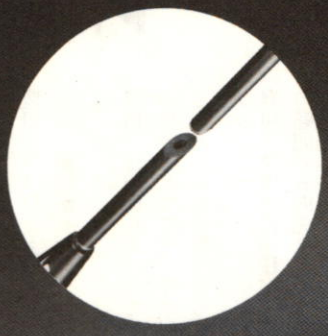

●渋谷、池袋、横浜各店のバドミントンコーナーへも、ぜひお立寄りください。

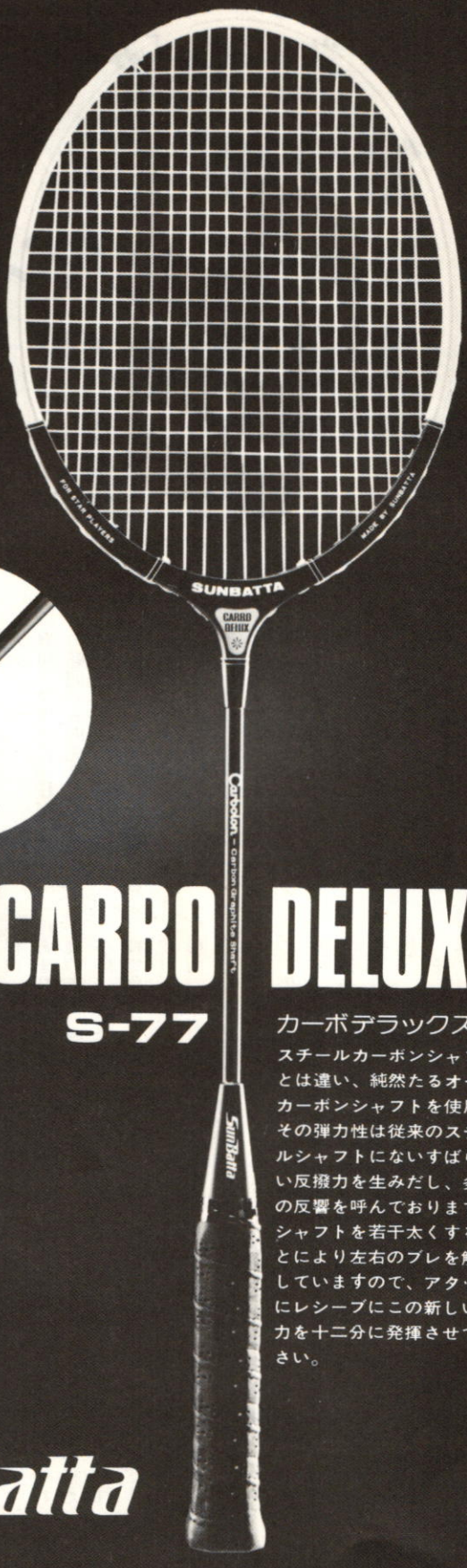
日本最大の
テニス・バド専門店

信頼のマーク WINDSOR ウインザー ラケット ショップ。

●渋谷店☎03(464)9251●新宿店☎03(363)6848●池袋店☎03(989)0401●横浜店☎045(453)1785






# CARBO DELUX II

## S-79

新製品

### カーボデラックスII

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

# CARBO DELUX

## S-77

### カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

ガッツ・対談「みんなと話そう」――――新連載

# 第2のリム・スイ・キンを目指せ!!



〈出席者〉豊田　裕
杉山　文則
小島　一平

小島　2人とも、中学へ入るまでのスポーツ経歴っていうかな、どんな運動をしてたの？

豊田　おもにサッカーです。

小島　強かったのかい。というより、小学校じゃ試合はあまりなかったのかな。

豊田　ええ、試合は区の大会とか2、3回しか。

小島　へえ、でも君は背が小さかっただろう。それでポジションはどこをやっていたの。

豊田　フォワードです。

小島　面白かった？　サッカーは。

豊田　はい面白かったです。

小島　それでなぜ、中学へ入ってバドミントン部へ入ろうと思ったの。

豊田　クラスの担任が、クラブの顧問の日向先生だったので、バドミントン部へ入れば少なくとも横浜市では優勝させてやるといわれて……。

小島　杉山君は。

杉山　僕は、小学校のときは卓球と水泳をやってました。

小島　クラブか何かへ入って？

杉山　横浜にあるスイミング・クラブに入ってました。

小島　じゃ何でも泳げるわけだ。

杉山　一応……。

小島　そして中学へ入っての動機は。

杉山　豊田とクラブが一緒だったので、だいたい一緒です。先生がクラブのPRをするので、つられて……。

小島　ふーん、そこで先生も体育の専門だけあって、2人の運動能力っていうか、素質を見抜いて強力に勧誘したのかも知れないな。結局、その先生との出会が、全国優勝に結びついたんだけれども、どうだった全国大会は。

豊田　初日に動けなくて、先生に怒られたのが一番印象に残っています。

小島　緊張したんじゃないのか。

豊田　そうだと思います。

杉山　僕は、全国大会の印象はあまりなくて、それより関東大会の方が、強く残っています。

小島　ああ、確か個人戦の1回戦で負けてしまって……、ガックリしたかい。

杉山　いえ、逆に今度は全国大会ではがん張ろうと思って……。

小島　がん張ったじゃない（笑）で、優勝できて、有終の美を飾れてよかったじゃないか。まして神奈川県は初めての優勝だし、後輩達に与える影響は大きいと思うよ。

そしていよいよ、4月から高校へ入学するんだけれども、日大高校は中学と一緒なんで、中学のときから高校生のプレーやレベルというものを見て一応わかっていると思うんだけど……。抱負はどうかな。どれくらいやれそうだとか。

二人　……。

小島　優勝を狙うとか（笑）、少し大きくいった方がいいよ。

豊田　できれば高1からインターハイに出て、レベルを見たり経験しておきたいです。

小島　うん、それは必要だね。1年ではともかく、2年生でベスト8とか、ある程度の成績を収めておくと、3年になってから強味になるね。杉山君は。

杉山　やっぱり同じになるけど、1年で試合に出て雰囲気に慣れて、2年では確実に上位を狙えるようにして、3年で個人、団体とも優勝を狙いたいです。

小島　うん、そうだね。中学と同じようなパターンで行くといいんだがね。

まッ、中学で全国優勝したぐらいだから、担当辛い練習をしてきたと思うんだけれども、今まで一番苦しかったことは？

豊田　中3の夏休み、大きな大会が続いた後の合宿が一番辛かったです。10日間の合宿で……。

全国から帰って1日しか休みもなかったし……。

杉山　中1の合宿で、高校生と同じ練習をやらされて、脱水症状を起して、救急車で運ばれたときです。

小島　それは思い出に残るな。（笑）

2人とも、いろいろプレーに接してみて思うんだけど、技術的には優れている面も多いし、身長もあるけど、これから考えて欲しいのは、体力、パワーをつけることだね。ことに最近は、ラケットがだんだん軽くなっているし、昔は140gぐらいあるラケットを振り回していたから、自然と力もついたが、それができなくなってきてる。脚力のトレーニングは、バドミントンの選手なら誰でもやるが、腕力、上半身を鍛えることもして行かなければ、外国勢と太刀打ちできなくなってくる。技術なんてものは、体力、スタミナがつけばつくほど伴ってくるものなんだ。そういった意味で、豊田君なんか、急に身長が伸びたんで、上半身の力がまだまだなんじゃないかな。

豊田　ええ、パワーをつけたいですね。

小島　杉山君の場合は、反面切れ味の鋭いスマッシュがあるかわりに、持久力といった点に物足りなさを感じたりするんだけれども。ダッシュなんかは速いんじゃないかい。

杉山　……。（考え込む）

小島　インターハイを見ていて感じるんだけれども、さっきもいったように、ラケットが軽くなったせいもあって、高校生でもハイバックをよく飛ばすんだね。でもね、それをジックリ見ていてわかったんだが、球の伸びがないんだなあ。途中で失速してしまうんだ。結局、フォアで回り込んで打たなければダメだってことなんだな。

今は、新年早々リム・スイ・キンがやってきたんだけれども、試合は見たかい。

二人　はい、見ました。

小島　どんなところが印象に残ったかな。

豊田　やっぱり、リム・スイ・キンが素晴らしかった。試合を見ているとすごく簡単そうにやってるし、ディフェンスっていうのか、つなぎの球っていうのか、レシーブしていても攻撃してるみたいで……。甘い球がないんですね。それから、リ・スイイ・キンとデルフスの試合を見たかったんですが、デルフスが途中で負けてしまったので残念でした。

杉山　僕も、リム・スイ・キンのコートでの動きの速さ、ジャンプ力とかが素晴らしいなあと思いました。

小島　そうだね。そしてただ素晴らしいなと漠然と見るだけじゃなく、心に深く刻みつけておくことが大切だね。その感動がどれだけ永く続くかも重要なことだろと思う。

僕らの高校時代には、あまりレジャーといってもスポーツぐらいしかなかったけど、2人とも趣味なんてあるかい。

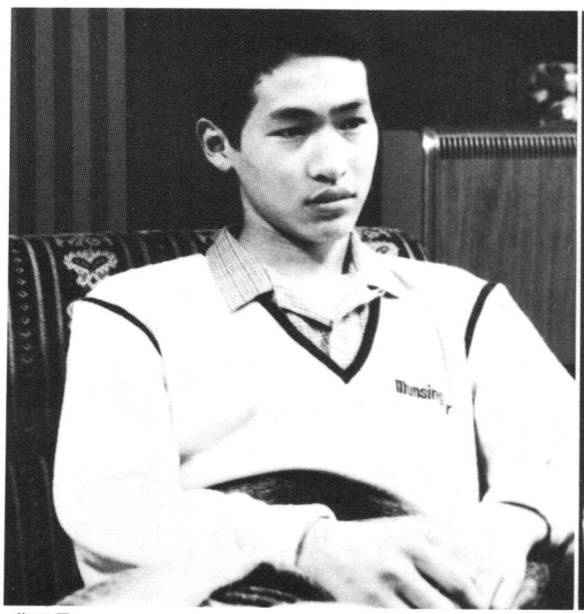
豊田　推理小説なんか好きです。それからレコードを聴くこととか。

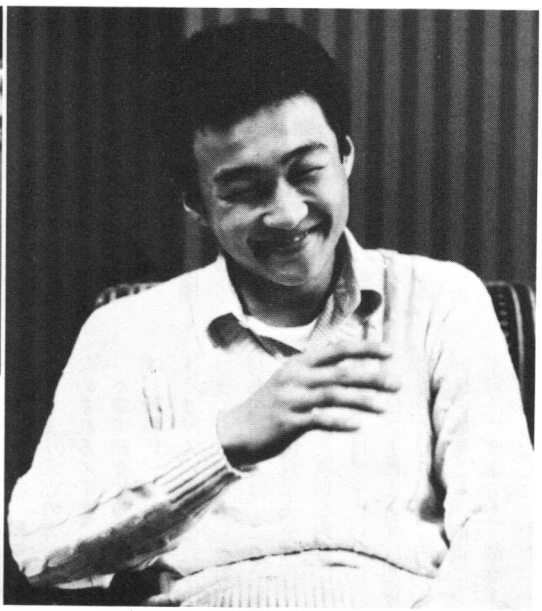
杉山　あまりありません。たまに友だちとボウリングへ行くぐらいで……。

小島　これから、2人が大学を出る頃には、プロ化がどんどん進んで、日本にもプロ・バドミントンができているかも知れないな。2人とも、第2のリム・スイ・キンになる可能性があるかも（笑）、がんばってね。

二人　はい。

（豊田、杉山両君は、昨年の全国中学に優勝、そろって神奈川日大高へ進学）


豊田君


杉山君

# "STARTING BADMINTON"

これから始める人へ

## スターティング・バドミントン

Starting Badminton
by Judy Hashman and C.M.Jones
Japanese language serial rights arranged
with Ward Lock Ltd., London
through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo.

ジュディ・ハッシュマン、C·M·ジョーンズ共著
後藤忠弘訳、栂野尾昌一・悦子協力

# 10パターン練習

一に練習、二に練習。もう聞きあきたよ、といわれることを承知の上で、再度、筆者は練習の重要性を強調したいと思います。

自らを鍛えるため、という不動の決意をもって、30発～40発の連続スマッシュからクリアー、ドロップと続け、一球一打に精神を集中して、機械的な正確さにまで高めていく、というようになれば最高です。

むろん、30発～40発もスマッシュを連打しなければならないような状況は、現実の試合ではまず起こりません。しかし、精神的にも肉体的にも、試合で要求される以上の鍛え方をするからこそ、実際にも役立つのであり、それが練習というものなのです。

ですから、もし、皆さんが最高レベルの選手をめざしているのであれば、だれかとぶらり、コートに出かけていって、5分間のウォームアップののちに、3～4ゲームの練習をやる、といった程度では、ものの役には立ちません。

個人的な話になりますが、私はバドミントンを習い出して間もないころ、妹と二人で、自分たちの技術の向上に役立ちそうな練習法を、片っぱしから工夫したものです。そして、父に毎日のように「新しいショットを教えて」とせがんだものです。

成人してのち、私はディック・ハッシュマンと結婚して、住所も生活環境も変わりました。そして、育ち盛りをすごしたボルチモア時代には、なんとすばらしい施設、環境に恵まれて練習していたんだなあ、ということを知ったのです。

というのは、いまの私は週に2、3回、それも1回につき1時間程度しか、練習に時間を割けないからです。練習相手は夫であり、彼は熱心で、なかなかのアイデア・マンでもあります。けれども、やはり、もう少し時間もほしいところです。

今の私たちは、限られた時間を1分でもムダにできません。それで、かつて私が妹と共同開発した、いくつかの練習パターンに手を加えて質の高いものにし、それを日常の練習に使うことにしました。

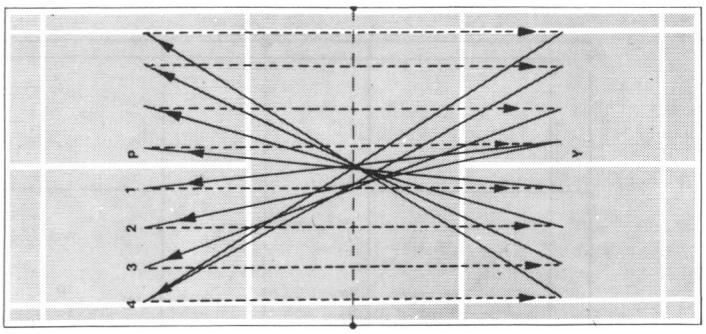
どこまでいっても完全はあり得ず、だからこそ、完全をめざさなければならない、というのが私の持論です。それで、その主旨に沿って、私たちは、新しいストロークや戦術の開発に役立ち、しかも、エラーをできるだけ減らす目的で、いくつかの練習メニューも、新たに考案しました。

私たちは約50分間、自分に課したパターン練習を精力的に消化したのち、これらの練習に含まれる要素を、実戦を通して仕上げる意味で、残り時間でスコアを取るゲームを行って、終わりにします。

それまでの練習で、二人ともくたくたになっているので、最後のゲーム練習は、ちょうど大会の試合で、ゲーム・オール後のファイナル・ゲームに臨むと似た状態でプレーすることになります。それで、精神のスタミナ、つまり意志の力が徹底的にためされるのです。

本章で紹介するパターン練習は、私のレパートリーの一部にすぎません。もっと、もっと、うまくなりたいという野心をお持ちの皆さんは、これらに、みずからの創意工夫を加えて、さらに豊富で適切な内容にするよう、心がけて下さい。

なにごとによらず、想像力は創造力の源ですし、そうした前向きの姿勢こそ、前進にとって不可決の要素です。創意工夫のひとつもなしに、ただ、いわれ



**第25図の説明**　体がほぐれ、完全にあたたまって、30～50球をミスなく打ち続けるまで、番号1の場所にとどまること。次に横に一歩移動して番号2の場所でプレーする。本文の①～④までの計4打から成るラリーを1単位とし、これを10回繰り返す。10回やったらYとPの役割を交代し、交代を三、四度繰り返したら、定位置を番号3に移す。以下同じ。ストレート、クロスではストレートの方が難しいので、役割を公平に交代することが必要。

たからやる、教えられたことだけをやっている、というのでは前人の域に達することさえ、おぼつかないと思います。

もっといいものはないか、こういうのはどうだろう、という気持ちをもって練習に臨み、頭に浮かんだことは、すぐに実行してみるようでないといけません。

以下、練習の内容説明の中では、あなたをY、あなたのパートナーをPの文字で表わし、二人とも右利きであることを前提にしています。

練習で組むお互い同士は、必ずしも技術レベルが同じである必要はありません。少なくとも、一方がクラブ・プレーヤーの平均水準にあれば、相手が国際級選手であっても、二人にとって十分、プラスになるよう、以下の練習内容が工夫されているからです。

皆さんの中には、各パターンの説明が、長くてやっかいな気のする人もいることでしょう。でも、そんなことを面倒くさがるようでは困ります。まず、読んで下さい。そして本書をコートに持ち込み、指示を順を追ってやってみましょう。なにも難しくないことが、すぐにわかるはずです。

**《ウォームアップ練習》**

これは体慣らしを兼ねたもので、フラット（ドライブ性）打球を主に使う、乱打練習の一種です。第25図を参照し、その説明もあわせて読んで下さい。

Y、Pとも、各自のコートの中央あたりに立つ。

①YがサイドアームのクロスをPのフォアに打つ。

②PはストレートでこれをYのバックへ。

③Yはこれをクロスでバックへ送り、

④Pはストレートでフォアへ返す。

以上の2往復が1セット。間を置かずにこれを繰り返す。

この練習では、Yはクロス、Pはストレートを打つことに特色があります。いきなりスピードのあるシャトルのやりとりをしないように。また、ネットすれすれをねらう必要はなく、ネットの30センチぐらい上を飛ばしてかまいません。

気をつけるのは、正しいグリップとフットワークです。徐々に打ち合いのテンポを早め、クロスには角度をつけ、シャトルの弾道も低くしていきます。飛んでくるシャトルを迎え打つ時は、駆け出す感じではなく、片足を大きく踏み出して（すでに学んだランジング）下さい。

図解パターンに忠実に従ってプレーすれば、早く動かないとしだいにシャトルに追いつけなくなります。全速で小走しなければならぬ場合も出てくるでしょう。しかし、その時でも、最後の一歩は必ず正しい姿勢で大きく踏み出して返球し、踏み出した前足の反動を使って、すばやくベースに戻れるようにすることが大切です。

体が熱くなって、息切れがしてくるまで続けなさい。早いペースになってから一定の時間が経過すると、やさしいショットをもミスする場合が出てきます。全くつまらぬミスを繰り返すようになったら、その段階でラリーを打ち止めにします。

**《ハーフコート》**

第26図を参照のこと。Y、Pともに各自のコートの中陣サイド・ライン寄りに位置します。

①Yはフォアのハーフコート（コート中陣に達する中距離の球）をPのバックに送る。シャトルがネットを楽に越すように低い打点から高めに上げ、相手陣サイドライン内側に落ちるようにねらって打つ。

②PはYのフォアへこれを返し、Yは再びPのバックへ。以上の往復を繰り返す。

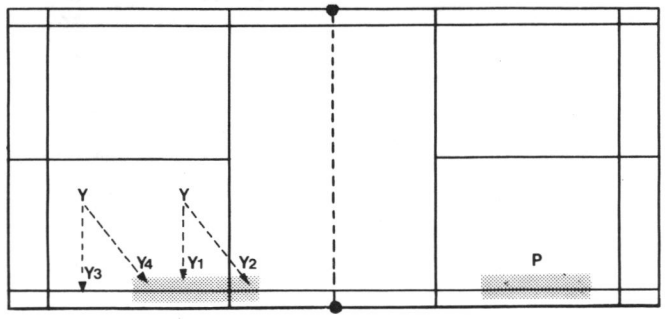
ハーフコート・ショットはほとんどの場合ダブルスで使われる武器だということを、十分、頭に入れて練習して下さい。

双方が10球ずつ打って、球に慣れてきたら、一打ごとに必ずコート中央（ホームポジションのあたり）に戻り、すぐ次の打球を迎えに、サイドラインの位置に引き返すことにします。

このセンター↕サイドラインの往復運動により、実戦の場面で大いに必要な左右へのシャセ（すでに学んだ、一種のすり足でのフットワーク）が効果的に勉強できます。

場合によっては、足をかなり深く曲げて体を伸ばし、いや、それでもシャトルに届かないことが起こるでしょう。ふとももがどのくらい痛くなるかで、あなたが、このパターン練習をどのくらい真面目にやっているかが証明されます。

もし、どうしてもがまんできないくらいに痛くなったら、いったん、ホーム・ポジションをサイドライン寄りに変えて、足




**第26図説明**　双方の体がほぐれるまでトラムラインズ（シングルスとダブルスの二本のサイドライン。ここではその二本の線から成る細長い区域を意味している）に正しく立ち、相手側の同じ場所にハーフコートのシャトルを送り込む。

体があたたまったら、ＹはＹ１、Ｙ２、Ｙ３、Ｙ４と記された各々の場所からシャトルを打つ。何番から打っても、シャトルを落す場所は、Ｐの灰色に塗られた区域である。シャトルは必ず一歩動いて打つこと。正しいフットワーク、ボデーバランスに気をつけ、正確に打つことに気持ちを集中させる。

Ｙ２の場所で打ち返す時は、できる限り早くその地点に移動し、より高い打点でシャトルをとらえ、フラット（地面に平行）に近い軌道のショットを打つようにすること。

Ｙ３、Ｙ４地点で受ける時は打点を（ダブルスの深い球によく見られるように）落して打つこと。奥から打点を落して打つと、それだけ長い距離を、力を入れて飛ばさなければならない。

の運動の負担を軽くしてやります。体の状態が回復したら、再びホームを元のコート中央に移し、ラリーを続けます。

次に、逆サイドのライン沿いにプレーの場所を移し、ＹとＰの役割も取り換えて練習し、各自が50球打つまで続けます。

**《スマッシュ対ドロップ》**

コートの片一方のサイドだけを使って行います。

①最初、Ｙが短いクリアーを打ち上げる。

②Ｐはこれをスマッシュ。サイドラインの内側をねらって打ち返す。

③Ｙはドロップで応戦。

④Ｐは前に踏み込んで拾い上げ、短いクリアーを上げる。

⑤今度はＹが②のようにスマッシュしかえす。

⑥Ｐはドロップで切り返し、⑦Ｙが再びクリアーでのがれ、⑧Ｐはスマッシュでつぶす。

以上、要するにＹとＰは、交互にスマッシュとドロップの練習を繰り返すわけです。

スマッシュを打つ場合は、むやみに力ばかり入れず、正確を第一に心がけることから始めます。打ち下ろしの角度（ねらい場所）と正しいフットワークに気をつけましょう。慣れてきたらスピードを加え、最後には全力で打ってかまいませんが、その場合でも、サイドライン沿いのねらい場所をはずさないようにして下さい。

クリアーはなるべく浅めに打ち上げ、ドロップは逆に相手コートに深めに入るようにします。これは、相手がスマッシュを打ちやすいようにお膳立てして、ラリーを長続きさせるためです。

スマッシュとの応待に慣れてきたら、少し、待ち受ける位置を深くしておき、打球が襲ってきたら飛び出します。そして、できるだけ前方で、腰の高さあたりでシャトルをとらえるようにします。しかし前陣からの返球は、この練習での場合は、必ず中陣に入るようにして下さい。そうでないと相手がミスを出して、ラリーがとぎれてしまうことが多いからです。

各自がスマッシュを10本ずつ打ち終えたら、今度は逆のサイドに場所を移して、いまと同じようなセットの練習を繰り返します。

しかし、このパターン練習のような状況下で、正しいスマッシュを打つには、かなりの高い技術と努力がいりますので、一人が10本打ち終えるまでには、いいかげん、時間を食うかもしれません。それで、便法としては、スマッシュ10本にこだわらず、ラリーを始めてから5分たったら、サイドを移すのはどうでしょうか。

**《走りながらのラウンド・ザ・ヘッド・スマッシュ》**

Ｙが右側コートに入り、Ｐはその向い合わせに立ちます。

①Ｙはゆるいドロップをバックへ、

②Ｐはクロスの短いクリアーをＹのバックへ返す。

③Ｙは左へ走り、ラウンド・ザ・ヘッドでこれをとらえ、Ｐのフォア・サイド・ライン沿いにスマッシュ。

④Ｐはドロップをストレートに返し、

⑤Ｙはバックのクロスでバックへクリア。

⑥Ｐは左へ走り戻り、ラウンド・ザ・ヘッドからのスマッシュをＹのフォアへ。

⑦Ｙはストレートでドロップをバックへ落す。

以上でひとめぐり、双方ともにラウンド・ザ・ヘッドで1発ずつスマッシュしたわけです。各人が10発ずつ打ったあと、サイドを変えて同じセットを繰り返します。あまり難しいドロップを打って、ラリーを困難にしないこと。

サイドを移したのちのラリーでは、双方のプレーヤーは、左から右に動いてラウンド・ザ・ヘッドを打たねばなりません。コートの右サイドでのラウンド・ザ・ヘッドは、ふだん、なおざりにされており、全く打てない人もいますし、打っても不正確というプレーヤーがほとんどのようです。

というのは、クロスに角度をつけすぎるからで、その原因は①シャトルに追いつくのが遅すぎるか②早く打つことにはやりすぎて、正しいストローク（パワーと方向性）に必要な、十分なフォロースルーをとることを忘れている――にあります。

これは、前項のふつうのスマ

ッシュ練習よりは有益で、訓練を必要としますので、お互いが30本ずつスマッシュするまで、止めないようにして下さい。

**《ドロップショット》**

①Yがフォア・サイド・コートのフォア奥のコーナーに立ち、Pは向い合わせのコートで、ネットに近く立つ。

Pが25本続けてYのコーナー深くハイ・クリアーを打ち上げ、Yはそれをストレートのドロップで返す。Pはできる限り深さも高さも同じクリアーを打つよう努力する。

②25本を終わったら、Pは反対サイドのネット近くに場所を移動、クロスでハイ・クリアーを25本打ち上げる。Yはそれをクロスのドロップで返す。

③次にYもバックの奥のコーナーに移動、先に移動していたPと再び向い合わせになる。Pはやはりクリアーの打ち上げ役。Yは今度はラウンド・ザ・ヘッドからストレートのドロップを25本、続いてハイ・バックでストレートのドロップを10本、打ち返す。

④次にPだけ最初の場所に戻る。Yはラウンド・ザ・ヘッドからクロスに25本のドロップをさらにハイ・バックからクロスに10本、ドロップを打つ。

以上を1セットとし、次はYとPが役割を入れ替えて、同じことを繰り返します。

この練習の主役は、ドロップを打つ側ですが、しかし、クリアーの上げ手も、ただドロップの相手をつとめていればいい、ということにはなりません。自分の役割を果たしながら、その中で積極的に技術向上につとめるべきです。

クリアーを一発打ち上げるたびに、いったんコート中央のホームに帰り、またそこから自分の持ち場に出撃して、相手からのシャトルを迎えるようにします。最初はできるだけ早く、すなわち、シャトルがネットを越してきたらすぐにとらえるようにする。また、別の機会には、できるだけ遅くランジング（片足を大きく前に踏み出す）してやっと間に合うぐらいのタイミングでとってみます。

捕球のタイミングや打点を変えても、みな同じようなクリアーが打てなければいけませんが、いずれにしろ、こうした努力を通して、動きと打球コントロールの両方を改善していくことができるのです。また、これら一連の練習は、スタミナのトレーニングとしても役立っています。

**《ハイ・クリアー》**

Y、Pとも各自の右側コートに位置し、Yのハイ・サービスでスタートします。

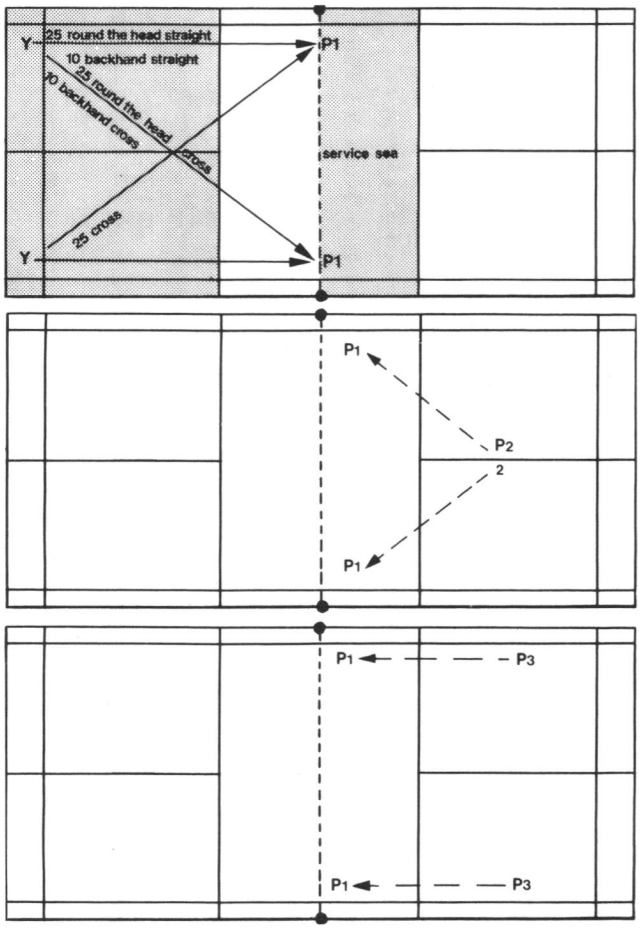
①Yのサービスを受けたPはハイ・クリアーでYのバック側に返す。

②Yはバックハンドでストレートにサイド・ライン沿い、クリアーを打ち返す。

③受けたPは再びストレートでYのバック側に、サイドラインに沿ってクリアーを送り返す。

以上を繰り返し、Yがバックで5本、Pがフォアで5本ずつクリアーを打つまで続けます。次にYとPの役目を交代して、同じように打ち合います。

これは、ちょっと退屈な、しかし、きつい練習の一種です。とくに腹筋にはいい運動になるでしょう。Y、Pともにかなりバドミントンの経験が深く、ハイバックでクリアーを打ち合える腕前でないと、この練習は成




**第27図の説明**　Yはいずれの場合でも、コート前陣の両コーナー、P1と書かれた場所のいずれかにドロップを落すが、これに対して、Pは必ずしもP1で待ち受ける必要はない（本文参照）。考えられる定位置としては、ほかにP2（コート中央部）P3（コート両サイドいずれかの中陣）がある。ここをホームポジションとして、Yからのドロップが飛んで来るたび、前陣コーナーへ出撃する。

り立ちません。したがって、初心者には無理です。

**《ハーフコート・ゲーム》**

Y、Pともコートの前半分だけでハーフ・コートのショットを使い、実戦的な駆け引きを交えて相手を負かそうという、一種のゲーム練習です。ディセプション（フェイント・モーションなどで相手をひっかける）と打球の正確さを磨き上げるのが主目的であり、定められた区域内なら、どこへ打ってもかまいません。

この狙いと、足の動き（フットワーク）を最大限に生かすために、双方とも、決して打ち下ろしのショットは使わずに、相手を負かす努力をすること。

サーブ権のあるなしに関係なく、ラリーに勝った方に、そのつど1点を与え、カウントをとります。サービスは卓球式に5本ずつ交代し、どちらか先に6点（10点の過半数）に達した方を勝ちとします。ゲームの要素が加わると、練習にも励みが出るものです。

**《総合的パターン練習》**

一応、3種類のパターン練習を紹介します。

（A）Yのハイ・サービスでラリーを始める。

①Yは右コートから、対角コートに構えたPにハイ・サービスを打ち上げる。

②Pはこれをクリアーで Yのバックのコーナー深く返す。

③Yはラウンド・ザ・ヘッドでこれをとらえ、Pのバック側ネット前コーナーにドロップを見舞う。

④Pはこれを拾い、ストレートでドロップを返す。

⑤Yは前進してこれをネット近くで拾い、クロスのクリアーをPのフォアに打ち上げる。

⑥Pもクリアーで返し、Yのバックを深く突く。

⑥Yは再びラウンド・ザ・ヘッドからのドロップをPのバック側前陣コーナーに落す。

これでやりとりが一巡したことになる。以上を繰り返す。プレーに変化をつけるため、次に左側コートからのサービスで、いまと同じパターンを繰り返すのもよい。

（B）今度はショート・サービスでラリーを始める。

①Yが右側コートからショート・サービス。

②Pはこれをドロップでストレートに返す。

③YはクリアーをPのフォア側コーナー深く上げる。

④Pもこれをクリアーで、クロスに打ち、Yのフォアへ。

⑤Yはクロスのドロップを Pのフォアへ。

以上をワン・セットとし、再び繰り返しに移ります。このラリーでは③—⑤でPに後退、前進がつながって負担がかかるので、Yは⑤のクロス・ドロップを打つさい、Pが十分、前に戻れるよう、加減して下さい。

（C）ラリーの順序は前と同じですが、今度は、Pのサーブで始め、役割を入れ替えます。次に、YとPがそれぞれ、左側サービス・コートからサーブして同じような展開を行います。

本章のパターン練習は、ラリーを長続きさせるのが目的ですから、相手が拾えないような所をねらって打ったりしてはいけません。どちらか（あるいは双方）が疲れてミスを出し、それでラリーが中断するのは仕方ありません。ラリーが長びくと、結局、一番、体力を使うのはハイ・クリアーだということが、わかるでしょう。

# 11 基本の戦術

うまい戦術の要諦は〝不意打ち〟すなわち、相手が予想しなかったことをやって、はっとさせることです。

といっても、驚天動地の策などがあるわけではありません。バドミントン・コートは比較的小さいので、私のいうところの不意打ちも、自分のコートのどこからでも、相手コートの四つのコーナーを襲うことのできる技術の熟練性、正確さを抜きにしては語れません。

これは、後陣のどこにでも、意のままにクリアーを打ち込むこと、そして、ネット沿いのどこにでもドロップを落すこと—ができなければならない、という意味です。

同時に、とぎすまされた神経、鋭敏な足と体の動きをマスターしなければ、相手が甘い球を返してよこした時に、すかさず襲いかかって、ラリーの決着をつけることができません。いや、その前に、まず、そういう球を〝作り出す〟こと自体が、大変難しい仕事ですね。

サーブ権を握った時、サーバーが第一になすべきことは、深く、高いサービスで、相手を後陣に押し込めることです。そして、それに続くハイ・クリアー

も、同様に十分深く、高く、何発打っても安定していなければなりません。

ここまでのストロークの目的は、それによって相手に甘い球を返させること、すなわち、待っていた通りの球が来たら、強打で粉砕するか、ドロップで泳がせるかして、ポイントを挙げるため、まずはその〝布石〟をすることです。

こうしてみると、バドミントン・プレーヤーは、少くともクリアー、ドロップ、スマッシュの三種の打球に堪能でなければなりません。

しかし、練習の初歩の段階では、ショットは安全に白線で囲まれたコート内に入れることが先決ですし、ドロップも、ネットをすれすれに越えさせようなどと、気張らなくて結構です。

最初から上手な人の真似をして、高度なことをやろうとすると、相手をやっつける前に、自分がエラーして損するのがオチです。また、最初から、この一打で得点しよう、決め球にしてやろう、などという考えは捨てて、まずは打球の質的向上を心掛けるべきでしょうね。

グリップに始まり、スタンスからストロークの技術、予見などに至る一連の作業は、瞬時に機械的にできるようにならなければなりません。こういうことによけいな神経を使わずにすめば、ポイントを挙げ、作戦を組み立てていく仕事に、意識を集中できるからです。

しかし、やってみると、自分のストロークの欠点や、作戦の幅の狭さなどを痛感させられることがあるでしょう。そういう時は一度、立ち止まり、再度の勉強に時間を割かなければなりません。

攻撃にあたっては、相手の位置から最も離れたコーナーを、たんねんに突くようにします。ゆさぶり、相手を片寄せて〝空地〟をつくらせ、そこにスマッシュやドロップを見舞えば、決め球となります。

ハイ・クリアーの次に、ドロップで相手を前におびき出し、続いて放つ、低くて速いクリアーも、けっこうな有効打となります。また、相手の動きの逆を突けば単なる速いリターンでも、エースをとれることがあります。

シングルスの半コートは横幅が約5・1メートルですが、深さ（タテの長さ）は6・6メートルありますから、その特性を生かして、相手をタテにゆさぶることを考えねばなりません。

焦らず、辛抱強く相手をゆさぶり続けましょう。多分、あなたはすばらしい〝4点セット〟の武器（サーブ、クリアー、ドロップ、スマッシュ）を持っており、それを駆使して、しばしばポイントを挙げているかもしれません。

しかし、どの相手にも同じことが通用するわけであありません。いつもワン・パターンでは相手に覚えられてしまいます。球種とコース、タイミングの組み合わせに変化を持たせる工夫を怠らないで下さい。

守勢に立たされた時は、相手コートのバックライン中央に何発でもクリアーを打ち返して、ホーム・ポジションを取り戻すようにします。バックラインの中央に送球すれば、相手がそこからこちらに返球するさい、その〝角度〟を最少限に制限できるからです。

いつまでもラリーの決着がつかないからといって〝出来心〟で無謀なショットを試みたりしてはなりません。相手より1本でも多く粘る、決して負けないという信念でラリーを続けなさい。息切れがして、苦しくてしょうがないという事態になっても、なお、あきらめないこと。次の一打がチャンス・ボールになるかもしれないのです。

## 《ダブルス》

たとえ、あなたが絶好調であっても、パートナーが自分の持ち場を守り切れない状態なら、おそらく勝ち目はないでしょう。それがダブルスというものです。もちろん、二人そろって最低の状態であるよりは救われるかもしれませんが、どっちみち、自分たちの目の前で審判がドロー（組合わせ表）に、勝者として相手の名前を書き入れるのを見なければならないのは、いい気持ちではありませんね。

ここから得られる教訓は、ずばり、チームワークが肝心、ということです。いい球をつくりパートナーに一打必殺のチャンスを与えましょう。パートナーがラリーの主導権を握っているときは、その仕事の邪魔をしないようにしましょう。

ダブルスに勝つには、一にも二にも攻撃です。守勢に回ったら、もう負けたも同然と思わなければなりません。

ダブルスには、基本的なフォーメーション（コート内における二人の位置関係）と呼ばれるものが、大別して二通りあります。ひとつはフロント・アンド・バック（前後陣型）で、もうひとつはサイド・バイ・サイド（並列型）です。実際のゲームでは、この二つの型が、場面に応じて適宜、使われるのです。

守勢の場合に適するサイド・バイ・サイドでは、二人は横に、ならんでコートの中間に位置しコートをタテに二分した、長方形の区域を、それぞれ守ります。

サービス側が、ゲーム開始時にフロント・アンド・バックの陣型をとるには、サーバーはできるだけコートのT字形（ショート・サービス・ラインとセンター・ラインの合わせ目）に近く位置し、パートナーは、その後方3～4フィート（約2・7メートル～3・6メートル）離れ、サーバーのやや右側か左側に構えます。

こうすれば、パートナーにはサーバーの動作がよく見えるので、相手側からのレシーブがどんな球で、どのへんに返ってくるか、見当がつけられるからです。

サーバーは、攻守の一般的な理論に従って、ショート・サービスを入れると同時に前進し、そのまま、ネット寄りのコート

の前部約三分の一をカバーすべく、位置をとります。パートナーは残りの後方三分の二の区域を守ります。

もし、サーバーがドライブ・サービスやハイ・サービスを出したような場合には、パートナーはすぐさまサーバーの横に飛び出して、サイド・バイ・サイドの布陣をとらなければなりません。そうしないと、サーバーの側方にハーフ・コート・スマッシュなどを見舞われた時、リターンできず、エースを許すおそれがあります。

ダブルスに勝つカギは、一にも二にも攻撃です。したがってできればどんな球でも〝打ち下ろし〟しなければなりません。〝上から下へ〟といっても、全力のスマッシュだけが能ではありません。時には、もっとパワーを抜いた〝ハーフ〟スマッシュやドロップ・ショットも効果的なものです。

トップ・アンド・バック型の攻撃態勢を敷いたら、主として後陣プレーヤーが、打ち下ろしの役目を引き受け、前陣プレーヤーは、相手側からちょっとでも甘い球が返ってきたら、すかさず飛びかかってたたき落とせるように構えます。

ダブルスの攻撃パターンを見ていると、こういう場合、後陣プレヤーばかりが、一人で〝仕事〟している印象が強いのですが、彼の第一になすべきことは相手を守勢に追い込み、下からの〝打ち上げ〟球を返球させることなのです。

後陣プレーヤーの守備範囲は広いので、相手の返球を処理するのに、できるだけ応戦の時間をかせぐ必要があるのです。

一方、前陣プレーヤーは、ラケットを高く立てて構え、スキあらば相手側からの返球をインターセプト（所定の飛行コースの途中でさえぎって、すかさず切り返す）できることを見せつけ、相手チームにプレッシャーをかけます。

守勢の相手チームは、ちょっとでも甘い球を返せば、命取りになることを承知していますので、必死になってクリアーを連発するでしょう。しかし、そのうちに一発、球が短くなればやっぱり、攻撃側のペースに屈してしまうのです。

もちろん、いつもこんなに調子よくことが運ぶとは限りません。相手チームの力量が、あなた方を上回る場合もあるでしょう。逆に、あなた方自身が全般に未熟であり、せっかくのチャンス球をも生かして使えないことがあるかもしれません。

いずれにしろ、こういう対戦では、たとえ、あなた方が攻勢に立っている場合でも、相手に予期せぬ一発をくらってしまうと、たちまち、ペースが逆転してしまうことでしょう。

こうなれば、しかたありません。今度はあなた方がクリアーに頼って、逃げ道を捜す番ですから、守りに便利なように、すぐサイド・バイ・サイドに開かねばなりません。

フロント・アンド・バックの陣型のままでは、相手の思うツボです。なぜなら、スマッシュの連打を浴びた時、後陣プレーヤー一人では、コートの三分の二という広い区域をカバーしきれません。かといって、前陣プレーヤーも、よほど〝読み〟がうまいか、運がよいかでもない限り、幅の広い両サイドを襲ってくる強打を防ぐのは、至難のわざだからです。

守勢に回った時は、ペースや狙い場所などを、一々考えて打ち返す余裕はほとんどないでしょう。実際上は、いわば反射的、本能的にリターンせざるを得ません。

けれども、こういう時こそが一つのカベを突き抜けて、一段階、進んだプレーヤーになれるかどうかの、試練の時です。どんなに苦しい状態に置かれ、浮き足立ちそうな場合でも、ふんばって〝考えた配球〟に努力する必要があります。入門したての人に、そんな要求をしても無理です。しかし、初級から中級へと技術が進んできたら、それができるようにならなければなりません。

ある程度、思いどおりの球が打てるようになると、ラリー中も必ず心の余裕が生れます。そうすれば、局面を読み、それに応じて、意識的にラリーのパターンを変えていくことも、可能になるわけです。

**★長い間ご愛読いただきましたスターティング・バドミントンは今月をもって連載を終了いたします。そして7月末に一冊の単行本にまとめて発行する予定です。写真もすべて撮影しなおして見やすいものとし、連続写真も数多く収録します。また日本の事情にあわせて、梅野尾夫妻に解説をつけてもらい、さらにわかりやすくして刊行いたしますので、どうぞご期待ください。詳しくは追って誌上に発表いたします。**

〈編集部〉


## 年間購読のおすすめ

バドミントン専門月刊誌「**バドミントン界**」は、一般の書店では販売しておりません。

購読ご希望の方は、編集部あて年間予約購読をお申し込みください。バドミントン界は一部定価**300**円ですが、年間予約購読をお申し込みになりますと、一年間**3600**円のところを**3000**円に割引となります。さらに日本バドミントン協会登録会員の方は、**2800**円となります。

お申し込み方法は簡単です。本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項明記のうえ、代金をそえてお近くの郵便局からお申し込みください。毎月15日に発行と同時にお送りいたします。

購読期間は1年ごとの更新となりますので、6ヵ月や2年間といった変則的なお申し込みはご遠慮ねがいます。

また、ヨネックススポーツ、河崎ラケットの特約スポーツ店、ラケットショップ元町、ラケットショップフジ、ジャワ商会、サンスポーツ、アサヒスポーツ各店でも予約をお取り扱いしておりますので、各店にご照会ください。

面白くて
ためになる

# ジョ〜ク大辞典

**嗚呼（ああ）** 感嘆の情を表わす声であるが、今どきこれを漢字で書く人は珍しい。若い人にいわせると「人間の発する音声を難しい漢字で表わすこともないだろう」ということなので、なるほど「嗚呼、同期の桜」、「嗚呼、花の白虎隊」とくるといかにも一時代前の映画のタイトルそのもの。今風に「ああ、逃がした魚は大きい」「アア、もう少しで勝てたのに」「アーア、いやになっちゃった」と書いた方が、ピンとくる気もしますね。ちなみに今売り出し中の大平さんの「アーウー」はこれにあらず。

**逢引（あいびき）** 媾曳、相引とも書く。いわずと知れたデートのこと。なんとも情緒があっていい言葉じゃありませんか。しかし、これを現実の会話の中で使うのは困難を窮める。平素に使っても秘めごとめいた、なにやら怪しげな雰囲気をかもしだすのに、使うのはたいてい40歳代以上の人に限られてくるから、いっそう意味深。かといって、デートなんて言葉が似合うのも、十代から二十代、せいぜい許されても三十代前半まで、これ以上になると、中年のイヤらしさが漂ってくる。40歳の係長か課長さんが「オレ、デートしてくるよ」もないだろう。古い言葉はジメジメした、湿気を含んでいるし、外来語が板につくほど肌になじんじゃいないし、中年を過ぎたら、デートなんかできないってことか。ああ、今は帰らぬデートリッヒ、なんちゃって。

**うるう年** 2月は28日までしかなく、4年に1回オリンピックの年は29日まであって、ここれをうるう年という、なんてことは小学生でも知っている。それでは4年に1回うるう年を設ければ、すべてがまるく収まるかと思ったら大間違い。地球が太陽のまわりを一周するのが、三六五日と約4分の1日、この約がくせ者。実際は三六五日と4分1日よりやや早い時間で、地球は太陽のまわりを一周する。だから暦通りにうるう年を重ねていくと、百年で1日の不足が出てくる。そこで百年に一回、本来はうるう年であるはずの年を平年にして、暦を修正しなければならない。これが百で割り切れる年。つまり、一八〇〇年や一九〇〇年は4で割り切れるにもかかわらず平年とする。だが、これでもまだうまくいかない。百年に一回、本来うるう年である年を平年にしてしまうと、今度はまた余りが出るので、四百年に一回、本来うるう年である年を平年にしたにもかかわらず、再びうるう年に戻す。再々々修正である。これが西暦年の四百で割り切れる年で二〇〇〇年がこれに当たる。これでも完全とはいえず、もうあと三千年もたつと再々々々修正が必要になるらしいが、その修正案はまだ作られていない。皆さん映画やテレビでおなじみの一心太助の親分、大久保彦左衛門の命日は旧暦の二月三十日、待てど暮らせど命日がやってこないとは、さぞや彦左さんも草葉の陰で嘆いていることでしょうね。

**顔（かお）** なめられては立たない男だけの所有物、なんて書くと成人向けなぞなぞのようだが、現に「オレの顔を立ててくれ」「人をナメやがったな」というのは男の専売特許。まずこういうセリフを吐く人に限って、理路整然としていたためしがなく、犬の遠吠え、売り言葉に買い言葉、おどしとすかしの世渡りテクニックのひとつとして、ごく一部の男に用いられているに過ぎない。が日本人はこの「顔を立ててくれ」に弱いんですねー、本当に。これをいわれると、自分が最も信頼され、期待されているかと錯覚したりして。冷静に考えてごらんなさい、こんなセリフはシラフではなかなか出てくるものではありませんぞ。男というもの、そう簡単に頭を下げたり、激昂するものではありません。世の男性諸君よ、声を大にして叫びたい「男たるもの、もっと雄々しくあるべし」

「男たるもの、堂々とあるべし」それから「男たるもの、寛容であるべし」それからそれから「男たるもの、冷静であるべし」それからそれからそれから、えーと、ホント、腹立ツナー。

**ガンダーラ** ゴダイゴという名のグループが歌っている、お経のような眠気を誘うメロディ。「へその国の名はガンダーラ、どこかにあるユートピア」どこにあるかってーと、古代インド北西部にあった、アレキサンダー大王の遠征により仏教文化とギリシャ文化が融合しガンダーラ美術が栄えたところ。これはホントのホント。まっしかし、これとゴダイゴの曲とはまったく関係はなく、この一曲でスターとなり、レコードも爆発的に売れたゴダイゴは、「へありがたいガンダーラ、オ・ガンダーラ、拝んだーら」とか。

# 第30回全英ジュニア・バドミントン選手権大会

## ☆15歳以下☆

# 大雪のワトフォードで息づまる熱戦

十五年ぶりの大雪の中、第30回全英ジュニア選手権大会が、ワトフォードのレジャーセンターで行われた。主催者側の指導もよく、大会は順調に進められ、また六面の「ホーヴァ」コート（コートマットの一種）は、この大会の意義を強調して、出場選手たちにもいい影響があったと思われる。

### 《シングルス》

**熟練のディパク対勇敢なスティーブ**

準々決勝では、ジョー・フォードはディパク・テイラーに屈しはしたが、みごとなるゲーム試合を展開した。ゴーム・ニールセンとテイラーの準決勝のスコアは、この試合の内容をそのまま示すものではなかった。両プレーヤーとも、よく動き、スマッシュをしたが、テイラーの全体的な力が決め手となった。

準決勝のもう一試合もすばらしいプレーだった。クリス・ドブソンはスティーブ・バトラーに力強いスマッシュを決めて、第1ゲームをとった。しかし、「テリヤ」の異名をとる勇敢なスティーブは去年よりも威力を増して、クリスにつけ入らせることなく勝った。

期待のディパクとスティーブの決勝はそれほど長い試合にはならなかった。正確なライン、スマッシュが第1ゲームの特長で、ことにディパクによく見られた。しかし、10―8の時、スティーブがスマッシュ攻撃を浴びせて逆転、第1ゲームを奪った。第2ゲームも同じような運びで、「ハングリー」スティーブが順当にタイトルを獲得した。

**G・G・一〇一%の出来**

ウェンディ・ポールトンは、準決勝でヘレン・トロークを自信たっぷりに押さえた。ウェンディはヘレンの逆足からのスマッシュをクロス・コートでブロックし、ヘレンは届かなかった。

準決勝のもう一試合、ジリアン・ガウァーズは、ルース・ロラソンを拍手に走りに走った。強打や変化技にまさるルースが勝ったが、ジリアンは一〇一パーセントの試合ぶりだった。

決勝第1ゲーム、またもクロス・ブロックを効果的に使ったポールトンの得点というよりも、ロラソンの失点というべきだろう。第2ゲームはルースも好調で切れのよいプレーで5―0とまずリード。フォアハンド・ハーフ・スマッシュとクロス・コート・フォアハンドを二人ともよくこなしたが、機敏さに勝るウェンディが順当な勝をきめた。

### 《ダブルス》

**敏速、猛烈な男子**

準決勝出場8名の中4名がハンプシャーから。第1ゲームではクリス・ドブソン＝スティーブ・バトラー組にいい面なしだったジョン・グディーヴ＝スティーブン・ボウデン組も、第2ゲームはラリーの応酬を見せたが、結局敗退。ジョー・フォード＝スティーブ・ウィルトン組もマイク・パーカー＝ディパク・テイラー組に破れた。ネットにマイク、後衛にディパクをおいて攻めるこのペアには全く手が出ない。このコンビネーションは決勝でも決め手となった。全員よく攻め、20ショットのラリーの後、14オールでセッティング。ディパク組が3点を入れた。第2ゲームでクリス組が5―0とリードした後調子が落ち、テイラー＝パーカー組がこれに乗じて勝利を得た。

**サセックス日和**

女子ダブルスは特に目立った試合がなかった。準決勝では、3名のサセックス選手がコートに揃い、ジリアン・ガウァーズ＝スーザン・モリス組が、その右利き、左利きの組合せをうまく使えなかったジェーン・エドワーズ＝アリソン・カートライト組を破った。決勝のポールトン・ロラソン組にもモリス＝ガウァーズ組にも圧倒的な強さは見られなかったが、ポールトン＝ロラソン組が変化と力にまさっていた。

### 《混合ダブルス》

**いらいらは禁物！**

クリス・ドブソン＝スーザン・モリス組が、それまでに見せてきた見事なプレーの後では、決勝では特に目ざましい期待はなかった。ところが、動きの早いディパク・テイラー＝ジリアン・ガウァーズ組に対して、クリス＝スーザン組は、第1ゲームでは非常に神経質になっていた。第2ゲームでは、調子をとり戻して、ラリーの応酬となったが、時すでに遅しだった。

この大会で目についたのは、テイラーの技、バトラーの粘り、フォード、ニールセン、ガウァーズの機動性、パーカー、モリスのネットプレー、トローク、シンプコン、カートライトの持来性、ドブソンのスマッシュ、ポールトンの重いサーブだった。

アロン・ロロックス
ランカシャーバドミントン協会コーチ

（バドミントン・ギャゼット 2月号）

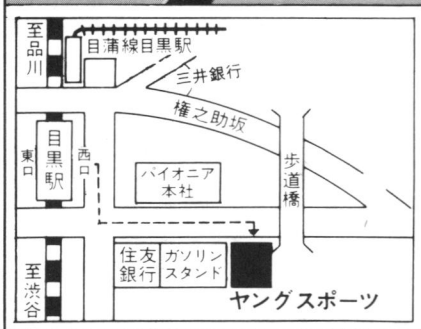



Liem Swie King
1978年度全英選手権
男子シングル優勝




大量入荷!!

# '79バドミントンラケットは カールトンだ!!




# ヤングスポーツ

〒153 東京都目黒区目黒1-3-16 目黒駅西口1分 ☎491-7822

# 日本リーグ発足にあたって

日本バドミントン協会会長
**本田弘敏**

日本バドミントン協会は、このたび「バドミントン日本リーグ」を発足することになりました。今秋十一月の第一回リーグを目ざし、担当の役員諸君が具体的な競技運営方法について現在検討中であります。

ご存知のように「日本リーグ」には、サッカー、バレーボールなど、多くの先輩リーグがありますが、バドミントンのように個人競技であり、しかも女子は世界のタイトル（ユーバー杯）を保持している競技が、日本リーグに踏み切ったことは、きわめて意義深いことと考えます。

バドミントン競技の発展を願うわれわれにとって、日本リーグの効用の第一は、高度の試合が全国各地で、しかも短い期間内に見られ、また高いレベルのプレーを集中的に行うことによって競技力の向上が図れるということであります。

現在のわが国の競技会は、実業団大会などに例を見るとおり、きわめて多くの選手が参加します。多くの選手が集まることは、意技の普及の尺度でもあり、喜ばしいことに違いないのですが、反面、試合期日が長くなり、早いラウンドでは、世界的なレベルの選手と、まだ経験のきわめて浅いプレーヤーが対戦して、いわゆる「手合い違い」のマッチが多くなります。極論すれば、プロ野球と草野球が試合をするに等しい状態が頻発するのです。

強い選手と試合をすることが自分の力を磨く最良の方法であることは言うまでもありませんが、これでは試合をやる方も見る方も疲れてしまいます。準決勝や決勝で、やっといい顔合せが出来ても、今度はスタミナがなくなって、いいプレーが出来ないという事実を、われわれは何度も見てきました。

日本リーグは、まずこのことを解消しようというのです。男女とも、日本のベスト・チーム八つをえりすぐった対戦は、どれをとっても好カードとなるでしょう。選手一人、一人の対戦も必ず力の接近した好ゲームになるに違いありません。一回の対戦が、せいぜい五試合ですから、見る方も、高度の試合が集中的に観戦出来ます。

個人戦で日本リーグをやる必要があるか——という批判もちろん耳にします。しかし実業団大会の団体戦におけるあの熱戦ぶりはバドミントンの役員も愛好者の皆さんもすでにご承知のはずです。水泳や陸上など個人競技でも、団体戦のリレーとなると、同じ距離を一人で泳いだり走ったりするより、ずっと記録が良くなる、と聞きますが、バドミントンの日本リーグも、この「リレーの良さ」を求めているのです。

第二に、日本リーグの発足は、一般企業のご協力で、競技の「社会性」を高めることが出来る点であります。

アメリカのオリンピック委員会が、五輪選手の強化のため、米国内の企業に協力を求め、日本体育協会も、モスクワ・オリンピックのために同権の方法を発足させておりますが、これからのアマチュアスポーツは、一般社会から浮離したものであってはならないと考えます。

バドミントンの場合、会社に所属するチームは多いのですが、そのほとんどが、単なる従業員の愛好会で、会社自体の理解や援助が得られないケースが多くなっています。他のボールゲーム競技のように、会社や公共団体自体が〝社技〟といわないまでも、バドミントン競技を認め、チームの育成に当たってくれることが望ましいのです。

日本リーグの発足をその発展は、こうした意味でバドミントンの「社会性」を高めることに役立つと信じます。わが国のアマチュアスポーツは、ほとんど学校教育の中で育ってきましたが、スポーツが市民の前に普及してきた現在、一般社会と無縁であってはならないと思います。

日本リーグは、国内で考えられる最後の競技会、いわば競技会運営の切り札であります。バドミントンが国民的スポーツに発展するためには、ぜひとも日本リーグを成功させねばなりません。

幸い、二年後には日本でユーバー杯の防衛戦が開催され、バドミントン熱も一層高まろうかと思います。このような時に日本リーグを発足させることは、まことに時宜を得たものといえましょう。

そして、成功の暁には、女子のユーバー杯だけでなく、必ずや男子のトマス杯も手にすることが出来ると信じています。皆さんのご協力を切にお願いする次第であります。

# 新しい人材の掘り起こしを

## 浅岡武日本リーグ運営委員長に聞く

〈聞き手〉後藤忠弘（東京新聞運動部次長）

**後藤**　本誌の先月号でも紹介されていたように〝いよいよ日本リーグが始動〟ということですが、他の競技では実業団リーグが中心となって運営しています。その点バドミントンでの実業団に対する働きかけは？

**浅岡**　実質的には一昨年から根回しをやりました。そのさい学生チームも加入させたら面白いのではないかという考えがありました。

**後藤**　実業団対学生という自主運営の大会をさらに発展させたいという考えと、日本協会のビジョンとが一致したわけですね。

**浅岡**　そのとおりです。

**後藤**　当然オールジャパンと並ぶビッグイベントとなるわけですか。

**浅岡**　個人の日本選手権がオールジャパンなら、団体の日本選手権はこの日本リーグだ、というふうに考えています。

**後藤**　それは選手レベルではそうですが、いわゆるウラ方のマネジャーとか、大会運営の現場レベルの人々の努力には報いられるのかどうか……。

**浅岡**　ええ、その点プレーヤーばかりに日が当って、ウラの人人はワリを食うという危険はあります。とくに学生連盟関係の人々にその懸念が強いと思います。しかし、この日本リーグ開催によってその社会性が高まれば、ウラ方の人々にとっても社会的に認められる大きな実績となるはずです。

**後藤**　この大会によってナショナル・チームの次点上の選手にも活躍の場が与えられるという利点もあるでしょうね。

**浅岡**　そうです。やはりユーバー杯を防衛しつづけ、トマス杯を狙うには、かなり新しい血を導入する必要があるわけですから。

**後藤**　百年の大計に立って日本リーグ開催に踏み切ったというわけですか。

**浅岡**　広くコンセンサスが得られるよう努力するつもりです。

**後藤**　日本リーグとして日本のバドミントン愛好者全体をリードしていくようなことも考えていますか。

**浅岡**　たとえば、サッカーの白と黒のコンビのボールが、日本リーグから生まれたように、バドミントンも〝日本リーグ式〟の何々といったものを生み、育てていきたいと考えています。

**後藤**　現在の段階で、具体的にはどの程度まで進んでいますか。

**浅岡**　本田会長、小口理事長が全国を回って、日本リーグの意義と目的等を説明しています。

**後藤**　サッカーが日本リーグを最初に実施したわけですが、これはサッカーの国際的登録国数が、なんと国連に加盟している国より多いという世界的スポーツであるのに、日本の競技力があまりにも弱いということが引き金になったわけです。そしてその状態から脱しようとしているところに、東京オリンピックでの上位進出という出来事があって、一気に実現したわけです。この結果トーナメントならば一回戦で負けてしまえばそれで終りだったのが、リーグ戦になって5試合なり6試合なりを戦えるということになり、競技力の向上に大きな効果が出ました。

**浅岡**　このサッカーの例は大変参考になりました。その精神は当然バドミントンにも通じるものだと思います。

**後藤**　バドミントンもそろそろ〝見せる〟スポーツの域に達したといえるのではないでしょうか。

**浅岡**　先日のワールドカップ'79の成功である程度の目安がつきました。2部リーグのチームは1部へ、下位は上位へと少しでも上を狙うことでプレーも向上し、団体戦特有の盛上りで、見る人を満足させられる内容になると信じています。

**後藤**　ただ私もマスコミ関係の一人なのですが、この日本リーグの報道がいわゆるベタ記事の範囲を出ない小さいものに終始するということも考えられるわけですが……。

**浅岡**　その点はもしそうなってもやむをえないと思います。しかし埋もれた人材の発掘、掘り起こしは十分に可能なはずです。

**後藤**　しかしたとえ小さな会場でもお客さんでいっぱいになるような努力は必要だと思います。プレーヤーというものはどんな競技でも、お客さんがなければ発奮していいプレーができるものですから。

**浅岡**　その意味からも、開催地、会場の選定は重要なポイントになると思います。もちろんこのことはマスコミへの働きかけを否定するものではありません。むしろ地域の媒体にも積極的にPRしていくつもりです。

**後藤**　バドミントンの日本リーグには学生チームも参加するというのが、大きな特色になっているわけですが、費用、分担金等の面で、学生チームは最も苦しいのではないかと思うのですが……。

**浅岡**　その点は十分考慮して、具体的な援護措置を検討中です。学生諸君のほうも登録会員数の拡大によって財政基盤の確立を進めてくれています。

**後藤**　半年などはアッという間に過ぎてしまうわけですから、十分な準備を重ねて立派な運営をしていただきたいと思います。

**浅岡**　ええ、新しいプロジェクトとして全力を挙げ、新時代を形成できるよう努力します。

# WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス
友枝康子

## 悪者どころか！

### スタンレー・C・ジョーンズ イングランド・バドミントン協会名誉法律顧問

この記事はまたまたIBFの会員資格をめぐる政治的問題をとりあげるのではなく、まだよく知られていないこの台湾の人たちにとってのバドミントンの持つ意味を紹介するものである。

**沖の小島ではない**

台湾は中国本土から百マイル離れたとても大きな島である。一九〇〇万の人口をかかえており、多くの人が思い違いをしているような、中国沖の小島ではない。IBFの統計によれば、世界で九番目のバドミントン大国、マレーシアやタイの2倍、インドやパキスタンの3倍の会員がいる。バドミントンの世界での単位でみれば、三分の二の大きさに過ぎないスウェーデンが、台湾は世界のバドミントン競技の発展を妨げている、などと非難するなど、冗談ではないと言いたい！

**台湾から世界チャンピオン？**

台北の台湾バドミントン協会本部でエキジビション・ゲームを見せてくれた、トップ・プレーヤーたちのゲームには、はっきりと技術攻撃の向上が見られたが、もっと印象的だったのは、12歳の少年同士のシングルスだった。この年の少年の試合としては、今まで私がどこの国でも見たことのない最高の水準だった。もし、国際競技に出場して経験を積む機会が得られれば、そう遠くない将来に、台湾から国際級のプレーヤーが生まれるのは間違いないだろうと思った。これからの十年間に、台湾から全英チャンピオンや世界チャンピオンが出ることもありそうだ。

**戸外のバドミントン市場**

滞在したグランド・ホテルの裏手に木々のしげる丘がある。協会の話では、毎朝六時過ぎとここに作られたコートで何百人もの人がプレーをするということだった。そこでIBFのモリーン会長と共に案内してもらった。その入口には、ありとあらゆるバドミントン用品、衣類を売当露店が店をひろげていた。

## 会員ステッカー 79年版ができました
☆ 今年はライトグリーン ☆

おなじみになりましたバドミントン・ワールド・ステッカーの79年版ができあがりました。

いよいよ3年目を迎えたステッカーですが、全国のバドミントン・ファンにすっかり定着した感じです。

各地でキャリング・バッグやラケットケースに貼られたステッカーをみるたびに、編集部一同ますます張り切っています。

今年の色は明るいグリーンです。銀パクの地、白いシャトルは例年どおりです。

価格は1枚100円は前回と同じですが、5枚まとまると300円に割り引きいたしますので、クラブの皆さんでまとめてお申し込みください。

送料は何枚でも50円だけ加えてください。お申込み方法は他の出版物同様、巻末とじこみの振替用紙をご利用ください。振込み手数料はかかりません。

**バドミントン界編集部**

木々を伐採し、整地して作られたコートは、毎朝プレーをするクラブに割り当てられている。ほとんどといっていいほど、中年の人たちがやっている。水準はそれほど高くないが、印象深いのは、この人たちがこのスポーツを心から楽しくてやっている様子だった。

**百面のコート**

この丘だけで百以上のコートがあり、同じような場所は台湾中に数多くあるということだ。

**日月潭の村**

次の出来事は、台湾の観光地日月潭をたずねた時のことである。ここには、中国系でない土着の住民のいる地域がある。夕暮で人影はない。

住居の間を歩いていると、二人が平地でシャトルを打ち合っていた。試合ではなく、ただ楽しんでいるだけである。シャトルは、以前はちゃんとしていたものらしいというだけ、ラケットも、ごみ箱に入った方がいい代物である。協会のリャン氏と私はこのラケットを借りて、5分ほどやってみた。

**バドミントンとは何か**

台湾では、バドミントン人口は大きく、急速にふえているのは間違いない。活発でしっかりとした機関の指導のもとに、主要な世界のバドミントン努力になろうとしている。

しかし、この度思い出に深く残るのは、台湾の将来のスターではなく、むしろ、朝早くからこのゲームを心から楽しむ中年の人たちの姿だった。姿、形も、着るものも、さまざまな一般の人たちである。

これからも、より大きなバドミントン運動の活発なメンバーとして、楽しみ続けていってほしいものである。

（バドミントン・ギャゼット2月号）

# シャトルコックの取扱いと修理

**羽根移植の技術**

準備するもの

患者　羽根の破損したシャトル

提供者　回復の見込みのないシャトル。できれば患者と同じブランドで、しっかりした羽根が2・3枚残っているもの

はさみ・ペンチ・にかわ

図のように切りとる。糸を切らぬように注意。羽軸をはずす。提供者からとりはずした羽根をループに通す。コルクの穴ににかわを一滴落とす。羽根を入る所までしっかりと押し込む。

起るかも知れない思わぬ障害

(1)こわれた羽根がコルクからはずれない。この時には、何か長いとがったものでゆるめるようにする。

(2)とりかえ用の羽根がループにすんなり入らない。この場合には、

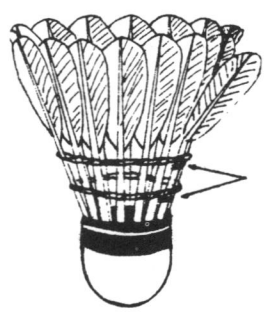
(a)羽根を小きざみにゆすりながら押し込む。

(b)ループにはおかまいなく、外側の糸と内側の糸の間に羽根をはさみ込む。

時には、とりかえ用の羽根を削って楽にループに通るようにするとか、羽根を押し込む間、ペンチを使って糸を持ち上げておくことが必要になる。

このようにして5本まで羽根をとりかえて、いい結果がでている。破損した羽根が隣り合っていないと一番いいのだが、どうしても、時々そうなるようだ。最初にこわれた羽根があると、弱くなって、その近くの羽根も使っているうちにこわれるらしい。そうなると、こわれたらすぐ、修理用としてのけておくのがいいようである。

羽根を切って抜き出す



**スピードの調節**

シャトルそのものを調節して、スピードを変える方法が2つある。重さを変えるか、羽根の先端の周辺を変えるか、あるいはその両方をやることである。

多少変える（2・3フィート）

羽根の先端を内側に折るとスピードが増し、外に折ると減速する。どういう変化を希望するかによって、4本目ごとに、一本おきに、あるいは全部の羽根を曲げてごらんなさい。

大幅に変える（2・3ヤード）

減速したければ軽くする。たいていのシャトルには、ラベルの下、コルクの中に小さなおもりが埋めこんである。ほとんどの場合小さな木ねじが使われている。これをとり除くのである。

スピードを出すには、重くすること。たとえば、ねじを加える。棄てるバードからねじをとり出して、必要なサイズをためしてみる。コルクの中にすでにねじが入っている場合には、そのわきにもう一つ入れるとぐらぐらするかも知れない。重い方のねじにとりかえるようにして、ラベルをにかわで貼って元通りにする。



羽根にループをすべり込ますことができない場合は，糸の間にはさみこむ

（ブラック・ナイト・ヴィクター・シャトルコックの販売者AMSスポーツによる。

オンタリオ・バドミントン2月号）

# 読者と編集者

## 特集号を!!

はじめてお便りします。とっても図々しいお願いなのですが、インドネシアのクリスチャン選手やリム・スイ・キン選手など有名な選手の特集をしていただきたいのです。

カラー写真（試合中のものやふだんの素顔など）やモノクロ写真、Q&A（住所、生年月日、身長体重、職業、血液型、GFまたはBF……）、そしてプレーの写真による解剖などをまじえて、一人5ページくらい……いえ3ページでもいいです。

ページ数や予算の関係があるかもしれませんが、どうかこのあつかましいお願いを聞いてください。別冊でもかまいません。

いくら高くても絶対に買います！　どうぞよろしくお願いいたします。

（札幌市中央区・わがままおとめ）

▼結論からいいますと、何とか実現できるよう準備中です。さいわいワールドカップ'79と69回全英選手権の写真が豊富にありますので、充実したものが作れそうです。しかし、予算の関係である程度予約注文がまとまらないとGO!!とはいかないのです。もう少し具体的になりましたら誌上でお知らせします。その時は真っ先に予約してくださいネ。

## カラーシャツについて

2月号表紙のリム・スイ・キンの着ているシマ模様のシャツについてですが、プレーヤーは白の上下の着用が義務づけられていると記憶していました（えりやそでにストライプのあるものは認められているのは知っていましたが）。しかし、リム・スイ・キンの場合は半分が他の色です。どのへんまで色つきのウエアを着てよいのか（認められているのか）知りたいのです。

（匿名希望）

▼日本バドミントン協会大会運営規定第6章「競技者」の第39条には「プレーヤーは運動着と運動靴を着用する。着衣は、ブレザー・コートをのぞきすべて白単一色を原則とし、バドミントン競技の品位を保つために、本会が推薦するものを限度とする」となっています。したがって白一色もしくは、日本協会が推薦するものに限られます。しかしリム・スイ・キン選手は日本バドミントン協会の会員ではありませんので、このルールに規制されません。推薦されるものについても時代の流れに沿うものであり、多少の推移があります。ただ全英選手権の様子などもみると、あまり派手なものや奇異な感じを与えるウェアは着用されていないようです。

## ファンレターは?

足立区の佐藤優佳さんから、次のような質問が、編集部へ舞い込みました。これは読者のみなさん共通の疑問でもあると思いますので、この通信欄でお答えすることにしました。

**問**　いつ、どこで、どんな大会があるというのは、どうすればわかるのですか?

**答**　全国クラスの試合は、新聞で知ることができます。また、所属の各協会（例・○○県バドミントン協会）に連絡してみて下さい。

**問**　前売券はどこで買うのですか?

**答**　都内各プレイガイド、または、日本バドミントン協会事務局（03—467—3111内線351）までお問い合わせ下さい。

**問**　「バドミントン界」を買う場合、ひと月分だけでも送ってくれるのですか?

**答**　もちろんお送りします。しかしバックナンバーはほとんどナイ状態ですので、発行日からあまり日数の経たないうちにお申し込み下さい。

**問**　日本選手のファンレターのあて先を教えて下さい。

**答**　それぞれの選手の所属している会社あてにお出し下さい。

**問**　バドミントン界の内容を教えて下さい。

**答**　まず、バドミントン界を買ってみましょう。迷っている方は、葉書に「見本誌希望」とお書きになり当編集部あてにお出し下さい。最近号をお送りします。

みなさんも質問に限らず、ご意見、ご希望がありましたら、どんどんお便り下さい。お待ちしています。

## ご協力を!!

昭和53年10月号をお持ちの方、どなたか譲ってください。代金、送料ともお支払いします。重複してもかまいませんので、よろしくお願いいたします。

（〒869—04熊本県宇土市走潟町四丁2532—1　下田　智子）

## 編集室から

▼お待ちかねの「全英選手権特集」をお届けいたします。リム・スイ・キンをはじめ、インドネシア男女の底力が伝わってくるのではないでしょうか。

▼飯野・土田組は大金星を逃しましたが、歴史に残るフェアな態度をみせてくれたようです。トマス杯戦での雪辱を期待したいものです。

▼インターハイの地区予選がそろそろ始まりました。今年から2ダブルス1シングルスの形式になります。今までとは違った展開になるかと思います。皆さんの健闘をお祈りします。

世界のカールトン

carlton

# カールトンは水鳥？




● PHOTO・左より…
トーナメント・プラス，トーナメント，インターナショナル，クラブ




水鳥球

トーナメント・プラス

**トーナメント・プラス**
1ダース￥3,600(1個￥300)
日本バドミントン協会検定合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球
常に世界をリードしてきたカールトンのニューモデルです。正確なフライト，すばやいターン・オーバー，そしてフェザーのフィーリング。トーナメント・プラスは確かにプラスαを感じさせるシャトルコックです。

**トーナメント**
1ダース￥3,300(1個￥280)
日本バドミントン協会検定合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球
世界一の消費量を誇るナイロン・シャトルのベストセラー。水鳥球の数倍の耐久性をもち，しかも，最も飛び方が似ていると評価されています。この絶大な定評は他の追従を許しません。

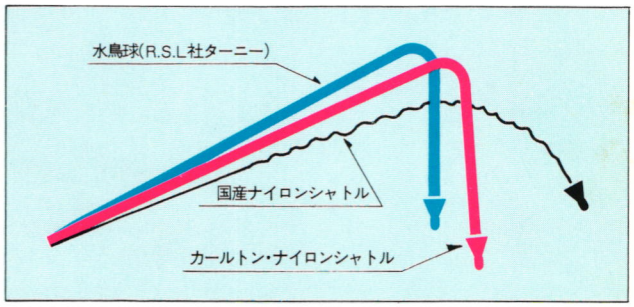
**インターナショナル**
1ダース￥2,800(1個￥240)
日本バドミントン協会検定合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球
国産品とは比較にならないほど優れた性能をもち，しかも値段は国産品と変りません。耐久性はトーナメントよりも丈夫です。初・中級者のための試合・練習球としてどうぞ。

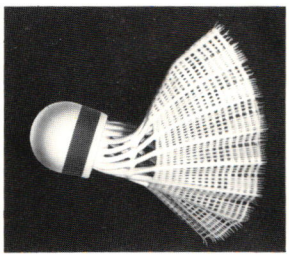
**クラブ**（練習球）1ダース￥2,400(1個￥200)

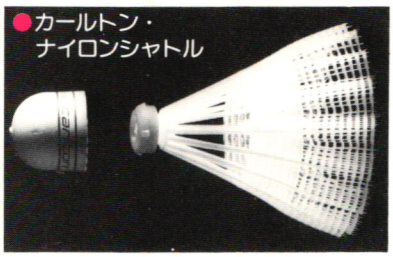
**昭和54年度より，ナイロンシャトルは中学校大会使用球になりました。**

## 1 Flight（ハイクリアー時に於る飛行曲線）

カールトンの目標は，水鳥球の原点といわれる英国R.S.L社のターニー・モデルです。垂直に落下してこそシャトルコック。これこそ，カールトンが追求し続けている基本テーマです。右の図を見れば，なぜカールトンが世界中のプレーヤーに使用され，他の追従を許さないか理解していただけるでしょう。



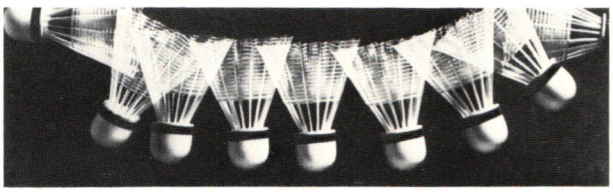


●カールトン・
ナイロンシャトル

## 2 Durability（耐久性）

丈夫と言われるナイロンシャトルをさらに一歩進めたのがカールトンです。回転機構の採用によりネジレをなくし，ヘッドもこわれやすいコルクからP.V.Cに変える事によって耐久性を更にアップしました。
（寒冷時に使用される時は，お湯で暖めてからご使用下さい。耐久性がグーンとアップします。）

●国産ナイロンシャトル



●カールトン・ナイロンシャトル



## 3 Turnover
（ネットプレー時の復元性）

ターンオーバー。この返りの速さこそカールトンの真髄です。ごらんの通り，国産シャトルと比べ違いがひと目でわかります。正確なショットを生む素早いターンオーバーこそ，微妙なタッチが要求されるバドミントンには欠く事のできない大事な要素です。

総輸入元　メトロレジャー株式会社　東京都千代田区外神田5-6-4 TEL.(03)833－3661㈹




# kawasaki

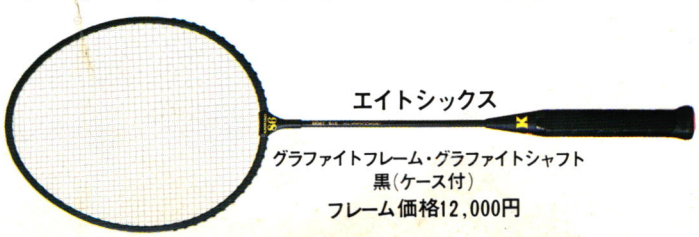
河崎ラケット工業株式会社




グラファイトシリーズ

**世界初のオールグラファイトラケット**

## バドミントンラケットも確実に進化しました。



エイトシックス

グラファイトフレーム・グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円